令和５年度

「小学校・中学校への地域の環境学習等支援事業」
「地域の特色を活かした環境学習支援事業」

実 施 報 告 書

新　　潟　　県
新　　潟　　市

目　　次

「小学校・中学校への地域の環境学習等支援事業」

１ 上越市立東本町小学校 ……４
見つめよう　わたしたちの 「 食 ・人・ 命 」

２ 上越市立北諏訪小学校 ……８
命をいただく　～食の大切さ・ありがたさ～

３ 上越市立上下浜小学校 ……１２
みんなで考えよう！「海は宝物か？」

４ 五泉市立五泉小学校 ……１６
五泉の水博士になろう

５ 五泉市立五泉南小学校 ……２１
【４年総合的な学習】五泉市に生息する魚トゲソを通して水と汚れなどの様々な関係について学ぶ。

６ 五泉市立川東小学校 ……２５
トゲソの里　水の里　川東

７ 五泉市立村松小学校 ……３１
五泉市に生息する魚のトゲソやサケ、近くで起きた新潟水俣病を通して、水環境について学ぶ。

８ 五泉市立愛宕小学校 ……３６
「わたしたちを支える水」五泉の水と環境に関わる調査活動を通して、豊かな水と人々のくらしや環境が関わっていることを理解し、きれいな川や海にするために自分たちができることを考え、自らの行動に生かす。

９ 上越市立柿崎中学校 ……４０
健康で安全な暮らしを守るために、私たちにできることを考えよう。

「地域の特色を活かした環境学習支援事業」実施報告書

１０ 新潟市立葛塚東小学校 ……４５
葛塚を食べよう！／水環境を考える～水と人が仲良く暮らすために～

１１ 新潟市立東山の下小学校 ……５１
学校近くを流れる川に住んでいる水生生物や水質を調査して、川の自然環境を調べよう。

１２ 新潟市立浜浦小学校 ……５７
水から環境について考えよう

１３ 新潟市立女池小学校 ・・６３
・自然環境を守るために、自分ができることは何だろう
・差別や偏見をなくすために、自分ができることは何だろう
１４ 新潟市立丸山小学校 ・・６８
「大好きにいがた・大好き大江山」～米から学ぼうふるさと丸山～
１５ 新潟市立結小学校 ・・７２
自然の変化が人々にもたらした影響について調べ、自然を守るための取組を考えよう。
１６ 新潟市立根岸小学校 ・・・７７
公害の被害を受けた地域では、環境を守るために、どのような取り組みをしているのだろうか。
環境を守るために自分たちでできることは何だろう。
１７ 新潟市立五十嵐小学校 ・・・８２
環境保全・自然環境について考えよう。
１８ 新潟市立潟東小学校 ・・・８８
ＥＭ菌の仕組みや活用事例を学習することを通して、ＥＭ菌と水質保全のつながりについて調べる。
１９ 新潟市立南浜中学校 ・・９２
新潟水俣病についての学習を通して、環境保全や人権尊重について考えを深めよう。
２０ 新潟市立白南中学校・・９８
新潟水俣病に関する学習を通して、環境・人権・自分の生き方について考えよう。

小学校・中学校への
地域の環境学習等支援事業

（様式２）　　小学校・中学校への地域の環境学習等支援事業 実施報告書

学校名	上越市立東本町小学校	担当（職・氏名）	教諭・梅澤ちひろ
学習テーマ	見つめよう　わたしたちの「食・人・命」		
活動のねらい	毎日の私たちの「食生活」を見つめ直し、様々な人々とのかかわりや体験を通して、「食」の大切さや問題点、「人」のおもいや願いを理解する。「食」を自分自身の問題としてとらえながら、課題解決に向けて取り組んだり、これからの自分の食生活や生き方を考えたりする。		

○　新潟水俣病とのかかわり

実際に生きた魚を捌いたり、田植え（バケツ稲）を経験したりする中で、食と命が密接に関係していること、そしてそれをつなぐものが「水」であることに気付いた。私たちにかけがいのない水が、人の命や生活を奪っていった新潟水俣病の学習へとつなげていった。学習を通して、体だけではなく、心も傷付いた新潟水俣病被害者に対する偏見や差別の解消に向けて自分にできることを考え、児童の実践的態度を養うことをねらいとした。

○　活動概要　（新潟水俣病とのかかわりについての内容に触れてください。）

（１）新潟水俣病の概要を理解する。
（２）写真やあがの川環境学舎の方からいただいた資料を活用し、阿賀野川は人々の生活と密着した命の川であることの理解を深める。
（３）現地学習会を通して、新潟水俣病を身近な問題として捉え、切実性をもちながら事実について学び、考えていく。
（４）環境と人間のふれあい館で語り部の方から聞いた実体験を基に、被害者のおもいや願いに寄り添う。
（５）新潟水俣病被害者が受けた偏見や差別に憤り、差別解消のために行動しようとする気持ちを高める。
（６）新潟水俣病被害者に対する偏見や差別をなくすために行動する。

○　活動詳細

実施期間	９月～２月

主な学習内容・活動内容	時間	指導・支援の内容
総合的な学習	２	○阿賀野川の様子や、新潟水俣病の発生の仕方、メチル水銀・食物連鎖の仕組みについて、あがの川環境学舎山崎陽さんから指導していただく。
総合的な学習	２	○山崎陽さんから聞いた水俣病の症状などをまとめ、新潟水俣病について気になることを、いただいた資料やインターネットを使って調べさせる。
総合的な学習	１	○現地学習会での自分の課題や質問を考えさせる。
総合的な学習	９	現地学習会 ○山崎さんと資料や動画等で学んできたことを振り返りながら、旧昭和電工鹿瀬工場周辺の見学を行う。 ○環境と人間のふれあい館で語り部である水澤洋さんと交流し、差別について学ぶ時間を設ける。

総合的な学習	3	○現地学習会で学んできたことをまとめるさせる。 ○交流した語り部の水澤洋さんの生い立ちや新潟水俣病の症状を確認する。
同和学習	2	○新潟水俣病の公式確認から 58 年経った今も病気や偏見に苦しむ事実と向き合い、偏見や差別をなくすために自分ができることを考え、行動しようとする意欲を高める。
国語	2	○これまでの学びを振り返り、作文にまとめさせる。
総合的な学習	3	○新潟水俣病に関する学びを新聞などにまとめ、発信させる。

○　協力団体・協力者等

・あがの川環境学舎　山崎陽さん
・環境と人間のふれあい館
・語り部　水澤洋さん

○　成果と課題

［成果］





・**事前学習では、**あがの川環境学舎の山崎さんから新潟水俣病の概要を教えていただいたことで、原因や症状について理解することができた。現地学習でも山崎さんから指導していただいたので、短時間でも学習効果の高い学びになった。
・現地学習では、実際に阿賀野川を見学した。案内してくださった山崎さんが、当時の写真を見せながら説明してくださったこともあり、児童は阿賀野川流域に暮らす人々にとって、生活に欠かせない大切な川であった「命の川」が「魔の川」となったことを実感することができた。
・環境と人間のふれあい館では、語り部の水澤さんの話をお聞きして、新潟水俣病の公式確認から５０年以上経った今も続く偏見や差別の事実と向き合い、偏見や差別が続いている要因や、差別に立ち向かう被害者を支えている仲間やおもいに気付いた。
・現地学習後の授業では、差別が現在も続いているために、被害者の方は体だけでなく心までむしばまれていることについて、改めて深く考え、共有する時間を設けた。さらに、差別解消のために自分ができることを考えることができた。

［課題］

・事前学習や現地学習を通して、新潟水俣病の学習をいろいろな角度から学ぶことができた。しかし、児童にとっては身近な問題とはいえない。一方で、今年は新潟水俣病の被害を訴えている裁判が行われている上に、来年４月に判決が言い渡されることが決定した。今後も学ぶ機会をもち続け、差別解消のための行動につなげていけるような支援をしていく必要がある。

（様式３）　**小学校・中学校への地域の環境学習等支援事業に係る授業記録**

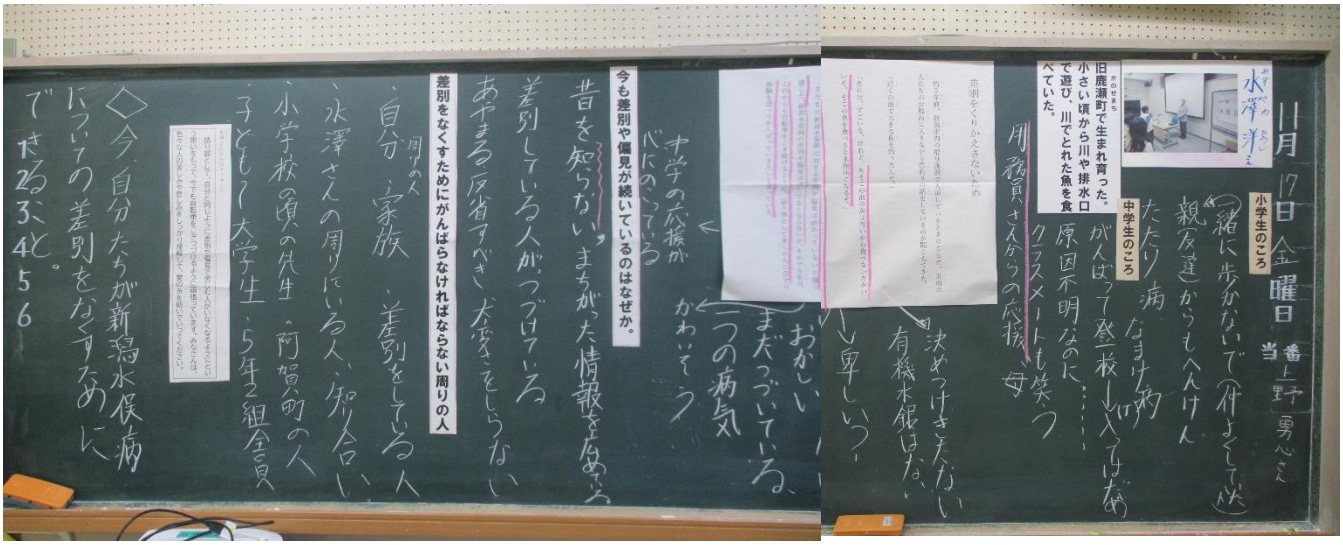
学校名	授業学級（人数）	実施日	実施教科等	授業者（職・氏名）
上越市立東本町小学校	**5年2組（30 名）**	**11 月 17 日**	**同和学習**	**教諭・髙橋桂**

主題名　新潟水俣病の被害者に対する差別や偏見をなくすために

ねらい　新潟水俣病の被害者が受けた差別や偏見に憤り、差別を許さず、差別の解消のために行動しようとする態度をはぐくみます。

配 時（分）	教師の働き掛け	子どもの反応（学習活動等）	資料
5	◎約６０年間も自転車をこぎ続けるように頑張っている水澤さん。今なお差別や偏見が続いていることについてどう思いますか。	○水澤さんが差別や偏見に立ち向かわなければいけないのはおかしい。 ○新潟水俣病について正しく知ろうとしない人がいるから差別や偏見が続いていると思う。 ○本来、差別や偏見をなくすためにがんばり続けなければいけないのは水澤さんではなく、周りの人だ。	新潟水俣病被害者の体験を基にして作成した資料
40	◎差別や偏見をなくすために頑張らなければならない周りの人とは誰ですか。	○水澤さんたちの家族や友達。 ○差別する人たち。 ○近くにいる人たちだけ頑張っても差別はなくならない。 ○水澤さんのお話を聞いた私たちも、頑張らなければならない周りの人の一人だね。	
15	◎水澤さんからのメッセージや今日までの学習であなたができることを考えましょう。	○水澤さんに寄り添っているだけでは、水澤さんに対する差別や偏見はなくならない。差別や偏見に対して具体的な行動をしていく必要があると思う。 ○差別されることで、誰の言葉も信用できなくなってしまう。自分は差別を無くすために、学び続けていきたい。 ○実際に差別や偏見を止めるために、自分の身近な人に新潟水俣病についての正しい知識を伝える。 ○新潟水俣病に関するニュースや情報を仕入れ、まずは学校のみんなに分かりやすく伝える。	

板書



授業後の子どもたちの考え等（作文等）

・差別や偏見を受けるとやる気や元気をなくしてしまいます。差別や偏見をすることは、絶対にしてはいけないことです。新潟水俣病になった水澤さん、いつか治ると信じ、がんばってほしいです。

・新潟水俣病の原因が分かっていても差別をするのはおかしいから、周りの人が水澤さんや新潟水俣病患者のみなさんの味方をしなければならないと思いました。水澤さんだけが頑張るのではなくて、私たちも応援や励ましをしていきます。

・同じ人間として、何かしらの病気になり、症状がでることは当たり前のことです。しかし、それでいじめや差別・偏見を受けて苦しまなければならない人がいることはおかしいことをあらためて学ぶことができました。

・被害者である水澤さん自身が傷付いてしまっている現状はおかしいです。私たちが「大丈夫、何か困っていることがあったら言ってください」という立場で、声をかけていきたいと思いました。

・水澤さんが小中学生の頃、いじめや差別にあっていたときに助けてくれた用務員さんのように、私も人を励ますことのできる人になりたいと思います。

・私はこれまで学習してきたことから、どんな差別や偏見もしてはいけないと思いました。そして苦しい思いをしている人や悲しい思いをしている人がいたら励まし、相手が傷付かないような声をかけていくことが大切なのだと思いました。

（様式２）　　**小学校・中学校への地域の環境学習等支援事業 実施報告書**

学校名	上越市立北諏訪小学校	担当(職・氏名)	教諭　塩浦仁美
学習テーマ	命をいただく　～食の大切さ・ありがたさ～		
活動のねらい	・米を育てたり、魚を調理して食べたりする活動や食に関する調べ学習を通して､いのちを食べることやそのために行っている人間の行為の意味を問い直そうとする態度をはぐくむ。 ・新潟水俣病に関する調査活動を通して、人間と食、環境とのつながりについての考えをもったり､いわれのない偏見や差別の解消のために行動しようとする気持ちを高めたりする。		

〇新潟水俣病とのかかわり

・活動概要③：資料活用により、阿賀野川流域の人々の生活や新潟水俣病の原因・症状・被害・裁判等についての理解を深める。

・活動概要④：「環境と人間のふれあい館」への施設訪問を行う。語り部の方から直接体験談を聞き、偏見や差別の現実を深く理解する。

・活動概要⑤⑥：新潟水俣病にかかわる学習を根拠にして、差別をなくすために自分にできることを考え、表現する。

〇活動概要　（新潟水俣病とのかかわりについての内容に触れてください。）

①米作り農家の方の指導を受けながらの米づくりをする。(4 月～11 月)

②米や、生きている魚の調理を通し、いのちをいただくことについて考える。(9 月～11 月)

③各種資料を活用し、新潟水俣病の概要を知る。(7～9 月)

④新潟水俣病にかかわる現地学習会を通して、被害者の思いや願いを理解したり、差別解消にむけて行動しようとする気持ちを高めたりする。(10 月)

⑤食べることに関する体験や語り部さんから学んだこと等を学習発表会で保護者や地域住民に向けて発表する。(10 月)

⑥食や環境、差別について考えたことを振り返り、自分が今後よりよく生きていくために大切にしたいことを様々な方法で表現する。(9 月～12 月)

〇　活動詳細

実施期間	令和５年４月～令和５年１２月

主な学習内容・活動内容	時間	指導・支援の内容
米づくり	１５	・米づくり農家の方の指導を受けながらの米づくりをする。
源流探検・河川・河口の環境調査	６	・川の探検や水質調査を行う。 ・河口の海岸の環境調査を行うとともに、ごみ拾いも実施する。
ニジマス調理	４	・ニジマスのつかみ取りをし、その場で一人一人がニジマスを捌き、調理して食べる体験を通して、食べることと命をいただくことについて考える。

新潟水俣病に関する学習（新潟水俣病現地学習会を含む）	６ ５	・DVD や「未来へ語りついで」を活用し、新潟水俣病の原因、被害などを理解する。 ・環境と人間のふれあい館を訪問し、語り部さんの講話（録画）を聴いたり、展示資料を見たりして、被害者の心情を理解し、差別解消のために自ら行動する気持ちを高める。
学びに基づく表現活動	１５	・学びから得たことを、新聞やポスターにまとめ、表現する。 ・学習発表会でステージ発表を行い、他の学年や保護者、地域の方に学びを伝える。

○　協力団体・協力者等（※この欄の必要が無ければ削除してください。）

・稲作指導：里方幹雄様（地域住民）

・現地学習：小町ゆみ子様（新潟水俣病 語り部）

○　成果と課題　（※成果と課題を分けて記述してください。水俣病とのかかわりの内容に触れてください。）

・川の探検や河川・海岸の環境調査を行うことにより、児童は「川は、人間を含めた多くのいのちをはぐくむところ」という気付きをもった。また、環境問題を身近な問題としてとらえていた。川魚を自ら調理し食べたことにより、川からの恵みやいのちをいただくことを実感することができた。

・資料「未来へ語りついで」を活用した調査活動により、児童は新潟水俣病に関する科学的知識を自分に分かる言葉に直したり、要約したりしながら理解した。その上で、環境と人間のふれあい館を訪れ、語り部である小町様のお話を DVD で視聴したり、差別に立ち向かった方々のエピソードをまとめた資料を読んだりして、被害者の方の生き方にふれる活動を行った。児童は、今も病気と差別に苦しむ人々の思いに寄り添い、自分にできることはどんなことなのかと行動をするようになった。

・新潟水俣病に関する正しい知識を多くの人にもってほしいと願った児童は、自分の伝えたい表現方法で学んだことや考えたことを ICT を用いたプレゼンテーションやパネルにまとめたり、学習発表会で保護者・地域に劇や呼びかけなどで伝えたりと発信することができた。

＜課題＞

・自然環境を守っていくための行動を継続して行っていくために、環境保全の意識を持続できるように、今後も支援する必要がある。

・新潟水俣病患者の方々への差別について、自分ごととして捉えられるようになってきた。そのことをさらに広げ、様々な差別を見逃さず、許さない心を培っていくことが今後の課題である。６年生で学習する「部落差別」へ意識をつなげていきたい。

（様式３）　**小学校・中学校への地域の環境学習等支援事業に係る授業記録**

学校名	授業学級（人数）	実施日	実施教科等	授業者（職・氏名）
上越市立北諏訪小学校	5 年 1 組（16 名）	9 月 28 日	総合	教諭　塩浦仁美

主題名　かけがえのない命

ねらい　新潟水俣病に対する正しい知識を基にもち、胎児性水俣病で苦しむ被害者や家族の身体的・精神的な苦しみを理解し、命を大事に生きようとする気持ちを高める。

配 時（分）	教師の働き掛け	子どもの反応（学習活動等）	資料
５	○これまで学習してきた新潟水俣病について、症状等に、どんなものがあったかを確認する。	・手足がしびれる。 ・耳鳴りがする。 ・めまいがする。 ・視野が狭くなったり、しゃべりにくくなったりする。	水俣病感染までの図
２７	○資料「胎児性水俣病」を読み、水俣病について内容を整理する。 赤ちゃんが水俣病になったのはなぜでしょう。 赤ちゃんが水俣病と知って、お母さんはどう思ったでしょう。 生きようと決めた親子はその気持ちになるまで、どんな思いや迷いがあったでしょうか。	・お母さんが、赤ちゃんがおなかにいる時に、魚や貝を食べたから。 ・赤ちゃんが魚を食べなくても、お母さんのおなかの中で水銀中毒になったから。 ・私の子どもがどうして水俣病になってしまったのだろう。 ・どうやって育てていけばいいのだろう。 ・きっとつらい思いをして過ごすのだろう。 ・生きていても楽しいことは一つも無いんじゃないか。 ・差別に負けてたまるか。 ・みんな、ちゃんと私を知ってください。 ・水俣病を知ってほしい。知らせたい。 ・つらいけど、ひとりじゃない。親子で闘おう。	（資料の読み聞かせ）
１３	○どんな時でも、命を大切にして生きていくことについて話し合う。	・病気の有無にかかわらず、一人一人大切な命をもっている。 ・たとえ悪口やひどい言葉を投げかけられても、自分の命を精一杯生きていきたい。 ・最後まで、自分として生きていきたい。 ・自分の人生でやることは、しっかり納得してからやっていきたい。	

授業後の子どもたち（・）と保護者の方の考え等（〇）

・誰も悪くないのにどうして…と思う場面がたくさんありました。差別は今も続いていることを、思い出し、悲しくなりました。そして、やっぱり許せないことだと思いました。

・どうして差別は生まれるのかということをずっと考えています。

・新潟水俣病患者の方は、近所の人や職場の人、お医者さんにまで悪口を言われて、病気になりたくてなったわけではないのに、本当に悲しく苦しい気持ちだったことが分かりました。私は、これからしっかりと相手の気持ちを考えてから話したいと思います。

・今でも続いている新潟水俣病への差別以外にも、差別をなくしたいです。そのためには、正しいことを知ることが大切だということがわかりました。

・小町さんたちはこういう思いで、語り部さんをやっているんだなと思いました。ぼくも、今日他の家族に勉強したことを伝えたいです。

〇親子で真剣に考えることができ、貴重な時間でした。ニュースでは聞きますが、普段はなかなか親子で話し合わないことでした。私自身、勉強になりました。

〇授業の序盤は、わが子が誕生した時の幸せな気持ちを思い出していました。中心部では、もしわが子が胎児性水俣病にかかってしまったらということを想像して、深く命と差別について考えました。きっとお母さんたちは、たくさん悩まれたでしょうし、ご自身を責めたのではないかと思います。









（様式２）　　小学校・中学校への地域の環境学習等支援事業 実施報告書

学校名	上越市立上下浜小学校	担当(職・氏名)	教諭　南雲江利子
学習テーマ	みんなで考えよう！「海は宝物か？」		
活動のねらい	地域の身近な自然である海での活動を通して、人・もの・ことに主体的に関わることで課題解決に取り組んだり、自然との関わり方について考えたりする。		

○　新潟水俣病とのかかわり

・海の植物観察や海岸の漂着ゴミなどを調べたり、塩づくりなどの体験活動をしたりすることで、海と川のつながりに気付く。
・海の環境に大きな影響を及ぼす川の水質にかかわる問題として、新潟水俣病の学習へとつなげていった。公害による生態系の破壊や人体への健康被害、さらに、差別や偏見などで現在も苦しめられている人がいることを知る。
・差別や偏見の不当性への理解を深め、それらを許さない態度を養う。

○　活動概要　（新潟水俣病とのかかわりについての内容に触れてください。）

（１）地域の身近な海に出かけ、課題に気付く。
（２）社会科の学習「健康なくらしを守る」で川と海の関わりについて考える。
（３）DVD を視聴し、新潟水俣病の概要を理解し、「新潟水俣病のあらまし」「新潟水俣病 20 の疑問」を読んで差別について知り、新潟水俣病を身近な問題として捉える。
（４）現地学習会を通して、新潟水俣病の被害と差別の実態について学ぶ。
（５）現地学習会での語り部さんの話を振り返り、願いや想いについて深く考える。
（６）新潟水俣病の被害者が受けた差別や偏見に憤り、差別解消のための行動を考える。
（７）海の環境について考えるために、海の生き物（魚）と学校にゆかりの深いクジラについて学習を深める。
（８）海と川の関係を理解し、環境問題や差別問題を解消する方法を考える。
（９）海や川の環境保護、新潟水俣病の被害者に対する差別や偏見をなくすために行動する。

○　活動詳細

実施期間	２０２３年５月～２０２４年２月

主な学習内容・活動内容	時間	指導・支援の内容
身近な海に出かけ、環境問題に気付く	１０	・上越教育大学五百川先生の指導の下、海の植物観察会を行い、「イソスミレ」の減少の問題知る。 ・地域の方の指導の下、塩づくり、地引網体験を通して地域の方とふれあい、昔の海と現代の海の環境の違いを知ると共に、環境の悪化を生活（生業）の変化などと関連付けて、課題意識を明確にできるようにする。
社会科「健康なくらし」の学習を総合的な学習の時間と関連させ、水環境として川と海のつながりを広く考える	６	・以前から一部の児童が興味をもっていた海の水質の問題について思考が広がるように、地域の水道の源のダムと川、浄水場を見学して学んだこと（社会科）が関連付くように合科的に取り扱う。
新潟水俣病について知る	５	・新潟水俣病や公害について知るとともに概要がつかめるように DVD を視聴する。 ・課題解決のために、「新潟水俣病のあらまし」「新潟水俣病 20 の疑問」をもとに、新潟水俣病について一人一人が自分の考えをもつ。

現地学習会を行う。 ・語り部の講話 ・環境と人間のふれあい館見学	５	・展示物を開設してもらうことで新潟水俣病の被害の大きさや深刻さをつかめるようにする。 ・語り部の方から新潟水俣病の症状、差別や偏見の実態とつらさを実際に聞くことで、共感的に理解できるようにする。
差別の実態について考えを深める	２	・深く理解できるように、語り部の小武節子さんにお聞きしたことを出し合う。 ・差別の不条理さを理解し、つらさに共有できるように児童が挙げた分かったことを板書で関連付けていく。 ・最後に考えたことをまとめ、発表し合う。
海の環境について考えを深める	１０	・上越市立水族博物館「うみがたり」の職員から話を聞き、砂浜で体験的にゴミ問題への意識を高める。 ・地元の漁師さんに話を聞くことで、守るべき資源について理解し、思いを深められるようにする。 ・学校にとって大切なクジラについて博士に学ぶ。
環境問題や差別問題を解消する方法を考える。	６	・「多くの人に伝えてほしい」という小武さんの願いを受けて、できることを考える。 ・体験を語ってくださった小武さんの思いを想起し、たくさんの人に知らせるための方法を考える。
環境保護、新潟水俣病の被害者に対する差別解消に向けて表現する。	４	・自分たちの考えがよく伝わるように、海の活動に興味がある市内の他の学校の同学年に焦点化して伝える機会をもつ。

○　協力団体・協力者等

・上越教育大学　五百川裕様　　・上越市立水族博物館学芸員　上野様
・地域住民　佐藤健様、佐藤勝博様（塩づくり）、小関邦秀様、片桐　充様（昔の地域・海の生業について）
・小武節子様
・地域の漁師　小山正様、小山洋市様、宮川良三様
・日本鯨類研究所クジラ博士の出張授業派遣講師　後藤睦夫様

○　成果と課題

【成果】

・多くの専門家や地域の方、語り部の小武節子さんなどから直接話を聞いて学ぶことで、正しく理解し、それぞれの方の思いを理解しようとする心情を育てることにつなげられた。直接体験の効果、重要性を感じた。
・地域での活動を多く実施した上で、新潟水俣病の学習を通して児童が自然と事象を関連付けることができ、児童の現在の生活圏から遠い場所で起きた出来事である新潟水俣病のことを身近に捉え、心を寄せる姿が見られた。
・語り部の小武節子さんにお話をお聞きし、差別の事態に衝撃を受けた。しかし、小武さんから「多くの人に伝えてほしい」という思いを直接託され、「このままではいけない。」、「自分たちにできることをしなくてはならない。」と、実践につながる思いを強くすることができ、表現の意欲につながった。

【課題】

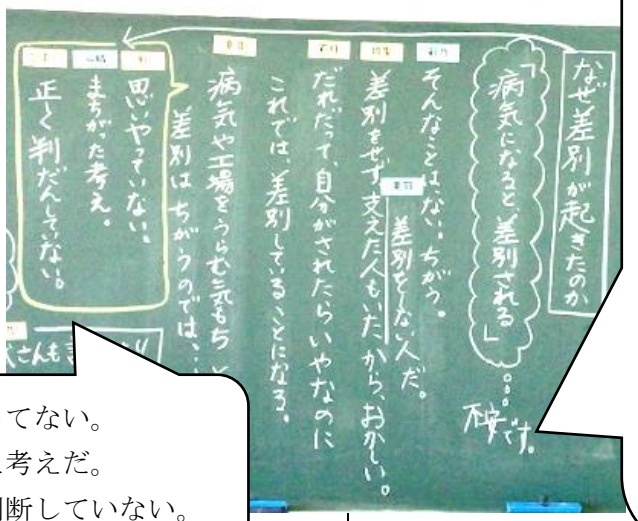
・校内のカリキュラム上では新潟水俣病に関わる学習が５年生に位置付けられているので、５年生も人権教育、同和教育の学習として現地学習に参加し、体験的に学ぶことができた。現４年生は引継ぎを適切に行うことで、来年度、深く学ぶ機会となるようカリキュラムの生成を行う必要がある。
・児童は、小武節子さんの思いを受け「多くの人に伝えたい」と考えたが、体験活動や話合い活動などに時間を掛けたことで発表の時期が年度末になってしまい、2 月中に発表会を終えることができなかった。表現することを通して、思いを深めるためにも、見通しをもって実践計画を練る必要があった。

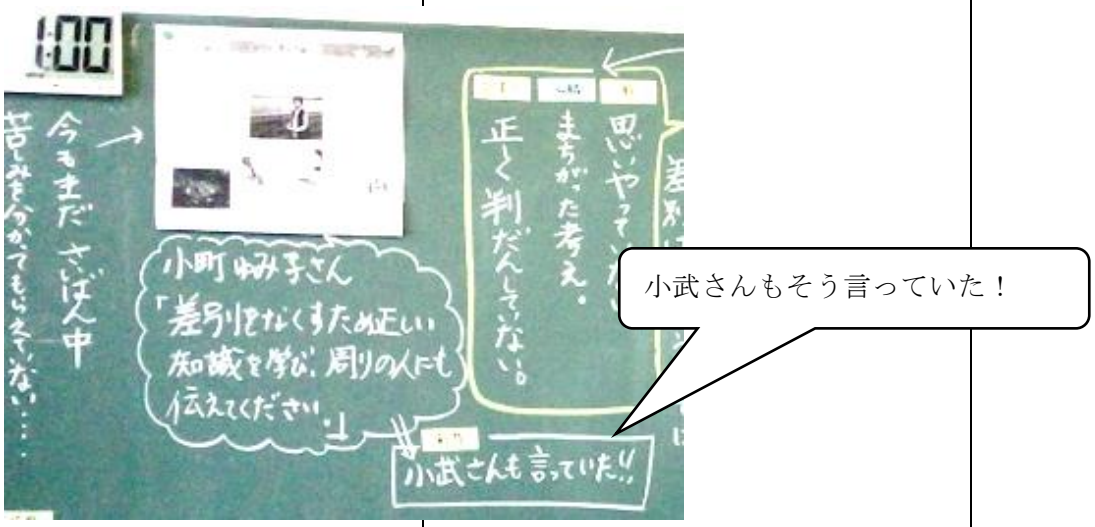
（様式３）　**小学校・中学校への地域の環境学習等支援事業に係る授業記録**

学校名	授業学級（人数）	実施日	実施教科等	授業者（職・氏名）
上越市立上下浜小学校	**４年生（11人）**	**10月17日**	**学　活** （人権教育、同和教育）	**教諭　南雲江利子**

主題名　差別について考えよう

ねらい　小武さんをはじめ新潟水俣病や差別に苦しむ方たちに思いを寄せ、誤った考えや差別を許さない心情を育み、周囲に流されずに自分の考えをもって正しいを行動しようとする気持ちを高める。

配時（分）	教師の働き掛け	子どもの反応（学習活動等）	資料
10	○現地学習で小武さんの話を基に考えたことを伝え合おう。  	差別について分かったことや考えたことを出し合いましょう。 ・差別は、人間関係をこわすものだ。 ・相手を傷つけるもの。 ・小武さんがとてもつらい思いをしていたことが分かった。 ・病気だけでもつらく、苦しいのに。 ・精神的につらい。 ・命にかかわる。　・人生に関わる。	・見学時のワークシート
25	なぜ差別が起きたのか、考えよう。 ○「病気になると差別されるのは心配だ」という意見について話し合う。  ・思いやってない。 ・間違った考えだ。 ・正しく判断していない。 ・そんなことない。ちがうよ。 ・差別せず、支えた人もいたから、おかしいよ。 ・支えた人は差別をしない人だ。 ・だれだって差別されたいやなのに、これでは差別していることになる。 ・病気や工場をうらむ気持ちと、差別はちがう。 （悪いのは、原因を作った工場や病気なのに、差別するのはおかしい） ○相手を尊重しない（大事にしない）と差別につながることを押さえる。	新聞記事「新潟日報ふむふむ」

	○小町ゆみこさんの記事を提示する。  		R5.10.16
10	○今日考えたことを書いて伝え合おう。	・下記、「授業後の子どもたちの考え等」参照	

授業後の子どもたちの考え等（作文等）

・改めて、差別を絶対にしたくないと思いました。でも、考える前は自分も差別をしていたかもしれないので、気を付けたいと思いました。

・差別をせずに、支えている人がいたことに気付き、自分もそうしたいと思いました。もし差別をしたら、小武さんが水俣病のことを泣きながら話してくれたことを生かしていないし、正しく判断できていないと思いました。

・友達の意見を聞いて、（病気や何か他の理由があるからといって、そのために）差別されるわけではないと分かりました。自分は、差別をせず、差別を止められるようにしたいです。

現地学習で学んだことを伝え合ったことで、小武さんの話や姿がより明確に想起されたようで小武さんに思いを寄せて考えを構築する姿が見られた。また、差別や病気について自分事として捉え、「心配だ」という児童の率直な発言を取り上げて話し合うことで、一人一人が本音を出し合って、深く考える姿につながったと感じた。

（様式２）　　**小学校・中学校への地域の環境学習等支援事業 実施報告書**

学校名	五泉市立五泉小学校	担当（職・氏名）	教諭・伊藤　恭子 関谷　将浩 高橋　正人
学習テーマ	五泉の水博士になろう		
活動のねらい	○　絶滅危惧種トゲソの生態と環境について学び，人間が川をはじめとした自然にどれだけ負荷をかけているのかを知る。 ○　川の汚れが何に起因しているかを知り，水の汚れの測定や浄化について学ぶことで，環境を守る意識を高める。 ○　「阿賀のお地蔵さん」の紙芝居や旗野秀人さんのお話などから，新潟水俣病で苦しんでいる人の存在を知り，環境を守る意識を高める。		

○　新潟水俣病とのかかわり

水の汚染が希少淡水魚トゲソに危機を及ぼしていること，また，水を汚したことにより近くの阿賀野川で新潟水俣病が発生したことを知る。そして，患者さんの支援をしている旗野秀人さんの話を聞いたり，「阿賀のお地蔵さん」の絵本や新潟水俣病関連の資料を見たりして，学びを深める。

○　活動概要

◇　人間が川を汚したことが原因で，トゲソが絶滅の危機に瀕していることを知る。そして，人間が生活によってさまざまな汚れや負荷を地球にかけていることを学ぶ。また，水の汚染により近くの阿賀野川で新潟水俣病が起きたことを知る。

◇　新潟水俣病の患者さんの支援をしている旗野秀人さんの話を聞き，公害の実態を知る。そして，このような環境問題や水に関わる問題に対し，どのように考え，行動していったらよいかを調べ学習を通して考える。

○　活動詳細

実施期間	令和５年５月～令和６年１月（４５時間）

主な学習内容・活動内容	時間	指導・支援の内容
トゲソについて知ろう	６	・トゲソについて，インターネット等で調べる。 ・「トゲソの会」の方から，トゲソの生態について学ぶ。 ・学んだことや考えたことをワークシートにまとめる。
トゲソの里を訪ねよう	６	・「トゲソの会」の方の案内で，トゲソの生息地を訪問し，トゲソや周囲の自然の観察，外来種の駆除活動を行う。 ・気付いたことや学んだことをワークシートや新聞にまとめる。
水の循環について知ろう 水の汚れを調べよう	７	・「トゲソの会」の方から，水の循環について学ぶ。ＣＯＤパックテストで，３種類の水の汚れを調べる。 ・学んだことや考えたことをワークシートにまとめる。
水の浄化実験をしよう	４	・水の浄化について学び，実験を通じて水がきれいになる方法を考える。 ・五泉市理科センターからお借りした透視度計で，自分たちがきれいにした水や水道水の透明度を調べる。 ・学んだことや考えたことをワークシートにまとめる。

水に関わる環境問題や新潟水俣病について調べよう	８	・日本や世界における水問題や新潟水俣病について，インターネットなどで調べ，タブレット端末やワークシートにまとめる。
旗野さんのお話を聞いて考えよう	４	・旗野秀人さんによる「阿賀のお地蔵さん」の絵本の読み聞かせや新潟水俣病についての話を聞き，新潟水俣病の実状について理解を深める。 ・旗野さんに，学習の感想やお礼の気持ちを伝える手紙を書く。
学習したことを新聞にまとめ，発信しよう	１０	・五泉の水環境について学んだことや伝えたいことを新聞やスライド，ポスターなどにまとめ，発信する。

○　協力団体・協力者等

ＮＰＯ法人　五泉トゲソの会　中村吉則様　齋藤明様

五泉市理科教育センター　専任所員　大内高徳様　協力員　長谷川大輔様

新潟水俣病安田患者の会　旗野秀人様

○　成果と課題

【成果】

・「トゲソの会」や旗野さんの協力により，トゲソや新潟水俣病について体験的に学ぶことができ，児童が身近な水環境や自然について，関心をもって学習に取り組む姿が見られた。

・学習を進める中で，児童に「きれいな水を守るために自分たちにできること」を考え実践していこうという意識が芽生え，今回の学習と自分の生活とを結び付けて考えようとする姿が見られるようになった。

・五泉小学校卒業生（現高校生）が，自身の環境と日常生活の関わりについての学びの一環として母校に来校し，児童とともにトゲソの学習に参加した。グループワークの際に，輪の中に入り，児童と会話を交えながら水が汚れる原因について一緒に考える機会がもてた。

・旗野秀人さんから来校していただき，「阿賀のお地蔵さん」の読み聞かせや水俣病についての話をしていただいたことで，水と自分たちの生活とのつながりについてより真剣に考えるきっかけとなった。

【課題】

・「トゲソの会」からの協力による活動だけでなく，地域に流れる川を題材として水と自分たちの生活との関わりについて追究させると，より自分事として身近に捉えられたかもしれない。

・「発信」の活動において，児童同士による意見交流が主となり，保護者への発信が不十分になってしまった。



【トゲソを知る・水の循環を考える】

トゲソの会の中村さん，齋藤さんからトゲソについて教えてもらった。トゲソがなぜ絶滅しそうになっているのかを，水の循環や環境との関わりの視点から考えた。





【トゲソの里見学・ザリガニ駆除】

トゲソの里に行き，トゲソが生息しているのはどのような場所なのかを，水を触ったり，周りの自然を観察したりして確認した。トゲソの絶滅を防ぐために，ザリガニの駆除作業を行った。地域に湧き出る「どっぱら清水」で湧き水を試飲することもできた。



【水の循環・ＣＯＤ調査】

水道水，米の研ぎ汁，牛乳を混ぜた水の３種類の水の汚れをＣＯＤにより調べた。家庭から出る生活排水が水を汚す原因の一つであることを学んだ。



【浄化実験】

身近にある道具を活用し，汚れた水をきれいにする方法をグループごとに実験して確かめた。ペットボトルに詰める材料の順により，水の透明度が変わることを学んだ。１度やってうまくいかなかったグループはきれいにしたいという追究意欲が生まれ，追実験を行っていた。





【阿賀野お地蔵さんの読み聞かせ】～旗野秀人さんをお招きして～

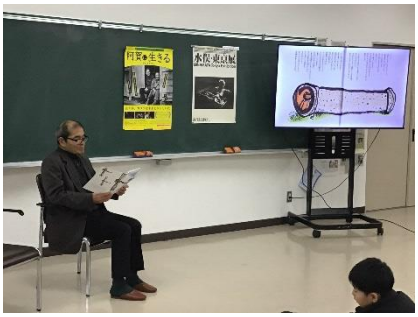
旗野さんの話を聞くことで，水がきっかけで大きな公害病が起こった事実を知ることができた。水が汚れることで人間にも影響を及ぼすことがあることが分かり，より水の大切について考えさせられる時間となった。

（様式３）　**小学校・中学校への地域の環境学習等支援事業に係る授業記録**

学校名	授業学級（人数）	実施日	実施教科等	授業者（職・氏名）
五泉市立五泉小学校	**4年生3クラス（84名）**	**1月18日**	**総合学習**	**教諭　伊藤　恭子** **関谷　将浩** **高橋　正人**

主題名　五泉の水博士になろう

ねらい　「阿賀のお地蔵さん」の紙芝居や旗野秀人さんの話から，新潟水俣病で苦しんでいる人の存在を知り，環境を守る意識を高める。

配時（分）	教師の働き掛け	子どもの反応（学習活動等）	資料
20	○旗野秀人さんを紹介する。 ○旗野秀人さんから「阿賀のお地蔵さん」の読み聞かせをしてもらう。	●読み聞かせを聞く。	・パワーポイント（絵本の挿絵）
20	旗野さんに質問しましょう。 	●挙手して，質問する。 ●ワークシートにメモを取りながら，話を聞く。 【子どもの質問】 ①どんなしょうじょうが出るのか。 ②かんじゃさんは，何人くらいいるのか。 ③他の県でも水俣病は発生したのか。 ④原因は工場排水だけか。 ⑤治った人はいるのか。 ⑥お地蔵様が２つ並んでいるのはなぜか。	
5	○振り返りを書かせる。	●授業を通して学んだことや感じたこと，考えたことをワークシートに書く。	

授業後の子どもの考え等(作文等)

・　現在でも困っている人がいるし，治す薬はいまだにないことが分かりました。昔のことだからではなく，今でも困っている人はたくさんいて，軽症でも手足のしびれがあり，重症だと話しづらくなることもあると分かりました。私たちは，話すことが当たり前だけれど，話しづらい生活をしている人がいることを知り，話すのは当たり前ではなく，話せるというのはすごいことだと思いました。水俣病は，聞いたことがなかったけれど，調べていくと不思議なことがたくさんあり，興味をもつようになりました。親からも聞き，大変な病気だとすごくよく分かりました。「水俣病になってかわいそう」ではなく，水俣病になってしまった人のためにどういうことをして助けられるのか調べていけたらうれしいと分かりました。勉強になってよかったです。

・(ある児童は，水俣病のことを知ったことをきっかけに「イタイイタイ病」についても調べ，感想を述べていました。)

　イタイイタイ病は，どんな症状なのか，どうなってしまうのか分からなかったけれど，調べてみたら，色々な症状があることが知れてよかったです。年齢なども詳しく知ることができました。病気で亡くなってしまう人がたくさんいるので，改めて，病気というものはこわいと思いました。のどの痛みから始まって，どんどん体の中でも変化が起きてしまうことは，とてもこわいことだと思いました。水俣病だけでなく，イタイイタイ病でもたくさんの人が苦しんでしまうということは，とてもおそろしいことです。だから，私は病気が起きないようにしたいと思いました。

（様式２）　　**小学校・中学校への地域の環境学習等支援事業 実施報告書**

学校名	五泉南小学校	担当(職・氏名)	４年　教諭　天井　滉野 他　１名
学習テーマ	４年総合的な学習…五泉市に生息する魚トゲソを通して水と汚れなどの様々な関係について学ぶ。		
活動のねらい	４年…きれいな水にすむ魚トゲソについて学び、人間が生活する上で川などの自然にどれだけ負荷をかけているかを知ることができる。川などの汚れの原因を知ることにより、水の汚れの測定や浄化について学ぶことができる。		

○　新潟水俣病とのかかわり

４年…人間が川を汚したことが原因でトゲソが絶滅に瀕していることを知る。そして、人は生活によってさまざまな汚れや負荷を地球にかけていることを知る。その中で水の汚染により近くの阿賀野川で新潟水俣病が起きたことを知る。これらの環境問題に対して一人一人がどのように考えたらよいのかをグループで考える。

○　活動概要　（新潟水俣病とのかかわりについての内容に触れてください。）

４年…五泉に生息する絶滅危惧種トゲソの生態を学んだ。子どもたちは、トゲソは簡易ＣＯＤパックテストなどにより、家庭からの排水汚れが絶滅の原因であることを知る。そして、トゲソだけでなく、近くの阿賀野川で工場排水によって新潟水俣病が発生したことについても学んだ。その後、水の浄化実験を通して、水を汚さないためにはどうしたらよいかを考えた。

※４年生は、保護者、地域の方々に、ビデオやポスターで学習の成果を発表した。

○　活動詳細

４年生は４回にわたってトゲソの関連で現地訪問、授業、実験を行った。またトゲソのビオトープで生息数調査を実施した。

阿賀野川に上るサケの捕獲場や捕獲作業、受精の方法、飼育の仕方を見学した。その後、自分たちで、稚魚になるまで、みんなで協力して飼育を続けた。

サケの卵の飼育が軌道に乗ったころ、道徳で新潟水俣病とたたかった患者の苦悩の経験と出会った。川を汚さない生活をしたい、家の人や地域の人たちに訴えたいと、願いが高まった。

実施期間	令和５年６月～令和６年２月	
主な学習内容・活動内容	時間	指導・支援の内容
① 6 月 1 日（木） 4 年生	10:40　～ 12:15	トゲソのことを知ろう。トゲソってどんな魚？ どうしてトゲソはいなくなったのあろうか？
② 6 月 9 日（金） 4 年生	9:10　～ 11:30	トゲソのすんでいるところを実際に調べる。水温を計測、地下水を味わう、ザリガニ駆除の手伝い。カナダモの除去法は？
③ 6 月 28 日（水） 4 年生	8:30　～ 12:15	水の循環。水の旅を考える。水の汚れを調べる。ＣＯＤテスト 3 種類の水実験。
④ 9 月 12 日（水） 4 年生	9:35　～ 12:15	校内ビオトープ「南の泉」のトゲソ生息数調査。 生き物調査・水生植物の調査。
⑤ 11 月 27 日（月） 4 年生	9:00　～ 10:40	サケの捕獲場や捕獲作業を見学しよう。
⑥ 12 月 15 日（金） 4 年生	10:40　～ 11:25	道徳「ある新潟水俣病患者の訴え」（生きるⅢ）から、阿賀野川の水の環境の大切さを考えよう。

⑦ 3 月 4 日（月） 4 年生	10:40 ～ 11:25	私たちが育てたサケの稚魚を放流しよう。
⑧ 3 月 13 日（水） 14 日（木） 4 年生	13:40 ～ 14:25	おうちの方や地域の方々に学習したことを発信しよう。

○　協力団体・協力者等

ＮＰＯ法人五泉トゲソの会　阿賀野川河川事務所(サケを守る会)

○　成果と課題（※成果と課題を分けて記述してください。水俣病とのかかわりの内容に触れてください。）

【成果】

４年生…五泉市に生息する身近なトゲソという淡水魚を通して、水の循環の仕組み、水の汚れの測定、そして水の浄化について学ぶことができた。新潟水俣病を含め、私たち人間がいかに水を汚してきたかを学び、一人一人が環境の保護がいかに大切かを意識するようになった。また、自分たちでサケの稚魚まで育て、放流する活動や保護者や地域への情報発信活動によって、身の回りの水の環境保全の重要さについてさらに学びを深めることができた。

【課題】

４年生…校内ビオトープやトゲソ生息地での活動が中心となり、新潟水俣病や阿賀野川についての話はあまり聞くことができなかった。今後、早出川の水質調査や、阿賀野川の調査活動などを通して、探究範囲を広げ、５年生の社会の環境の学習につなげていきたい。

【活動成果参考写真】



① 6 月 1 日トゲソを知る



②6 月 9 日生息地見学



③6 月 28 日水の循環を考える



④9 月 12 日生息数調査



⑤11 月 27 日サケ捕獲場見学



⑥道徳「ある新潟水俣病患者の訴え」



⑦3 月 4 日サケの稚魚放流



⑧3 月 13 日、14 日情報発信

（様式３）　**小学校・中学校への地域の環境学習等支援事業に係る授業記録**

学校名	授業学級（人数）	実施日	実施教科等	授業者（職・氏名）
五泉市立五泉南小学校	２クラス（５６人）	12 月 15 日	道徳	教諭　田村　夢希 教諭　天井　滉野

主題名　ある新潟水俣病患者の訴え

ねらい　新潟水俣病の原因追究や公害病認定にむけて懸命に取り組んできた人々の生き方を学ぶことで病気に対する差別をなくしていこうとする心情を高める。

配時（分）	教師の働き掛け	子どもの反応（学習活動等）	資料
7	新潟水俣病が発生した地域や病気の主な症状をとらえる。		・iPad ・生きるⅢ ・写真
	・これまでの活動を振り返り、私たちが川を汚していることを想起できる資料を提示する。	人が川や水を汚している現実を想起する ・トゲソはきれいな水にしか住めなかった。 ・南の泉もきれいだった。 ・身の回りにある川はきれいばかりとは言えない。	
15	・いつ頃、どこで、どんな原因で発生し、どんな症状だったのかのとらえさせる。	新潟水俣病を知る ・阿賀野川は、サケを放流した場所だぞ。 ・どんな症状が出たのだろうか。 ・手足のしびれ、耳鳴り、頭痛、めまい。	
	資料を読み、差別を受けた「わたし」の苦しみやその背景について考える。		
	・資料を範読する。 ○阿賀野川は当時の人々にとってどんな存在だったのだろう。	・魚とりや遊びができる大好きな場所 ・大事な食料がとれる場。魚をとって毎日食べていた。	
	○「わたし」の心や体、家庭もぼろぼろになった原因は何だろう。	・川でとれた魚を食べたためだった。 ・周りの人が理解してくれない。 ・焦りや不安。 ・原因が分からなかったことがつらい。 ・差別の言葉、偏見の目で見られること。 ・仕事や家事も上手くできない。	
10	○なぜ「わたし」は病気の苦しみや差別、偏見に負けず生きていくことができたのだろう。	・自分を頼りにしてくれる人、共に戦ってくれる人が支えだったと思う。 ・自分たちと同じように苦しんでいる人たちのために。 ・二度と同じようなことが起きないようにするために。	

5 7	○もし、あなたが「わたし」と接するなら、どのようなことを大切にしますか。 ○今までの学習をふりかえり、「わたし」への励ましの手紙を書きましょう。	・「わたし」の思いや気持ちをきちんと聞いてあげたい。 ・差別や偏見をもたず、接していきたい。 ・差別や偏見を許さず、患者に寄り添い、ともに行動しようとする気持ちを高める。	



授業後の子どもたちの考え等(作文等)

＜「わたし」への励ましの手紙＞

・陰口を言われたり冷たい態度で見られたりして、つらかったでしょうね。負けないで闘い続けてすごいと思いました。

・病気の痛みや苦しさもつらかったでしょう。誤解や偏見、差別もあって、本当につらかったでしょうね。

・20 年以上も戦わなければならないなんて。差別や偏見を受けながら亡くなったひとは、どれだけくやしかったでしょう。

・川を汚さないで水を大切にしていきたいなと、あらためて思いました。

・サケが安心して戻ってこれるよう、川を大切にして守っていきたいです。

（様式２）　　小学校・中学校への地域の環境学習等支援事業 実施報告書

学校名	五泉市立川東小学校	担当(職・氏名)	教諭　井村　早智
学習テーマ	トゲソの里　水の里　川東		
活動のねらい	トゲソに関する調査活動､川の環境を守る取組をしている人々とかかわる探究的な学習を通して、 ①トゲソの生態や生息環境、人々のかかわりについて理解させる。 ②課題の解決に必要な情報を収集・比較・分類・関連付けて考える力や表現する力の育成を育成する。 ③進んで生物や人々にかかわり、それぞれが暮らしやすい環境にしていこうとする態度を育てる。		

〇　新潟水俣病とのかかわり

・水環境が侵された歴史、罪のない人々が昔も今も苦しんでいる事実を正しく理解する。

・水環境を守る大切さを一人一人が考え、水環境を守る実践者としての意識を高める。

〇　活動概要

（１）トゲソハウス（ビオトープ）の清掃、維持活動の中から、トゲソの生態や生息環境、使われている水などに関心をもつ。

（２）トゲソの会の講師とともに、トゲソの生態や生息環境、水の循環、水の浄化などトゲソにかかわる学習をし、トゲソに関する知識を深める。

（３）トゲソの生息地の水質、環境調査を行う。また、外来種の駆除活動にも参加する。活動を通して、人が自然（水環境）を維持、守っていく必要があることを理解する。

（４）学校近くの小川（新江川）の水質調査、トゲソや水生生物の生息数調査を行い、身近な水環境がきれいであることを理解する。

（５）トゲソが生息する水と生活の中で使う水の違いや､使われた水がどのように処理されるのかを理解する（社会科と関連)。

（６）新潟水俣病が発生した現地と環境と人間のふれあい館の見学、語り部の方との交流を通して、新潟水俣病の正しい知識を身に付けるとともに、水環境保全の大切さを理解する。

（７）自分たちの学んだことをどのように伝えるか考え、発表する。また、あがのがわ環境学舎の方から当時の様子や語り部の立川小三郎さんの話を聞き、一年間の学習を新聞にまとめ発表する。

〇　活動詳細

実施期間	２０２３年６月～２０２４年２月

主な学習内容・活動内容	時間	指導・支援の内容
トゲソハウスの清掃活動 トゲソの観察	５ （常時活動）	トゲソ・水草・水の観察、清掃などの活動を通して、トゲソや水に興味をもつ。

トゲソや水についての学習会、学習会の振り返り	２０	トゲソの生態、水の循環や浄化方法、トゲソの生息地の水質調査、外来種の駆除活動、トゲソや水生生物の生息数調査などを通して、トゲソや水を大切にしようとする心情を育てる。
上下水道の仕組みの理解	５	水の循環や浄化方法について、社会科の学習と関連付けながら学ぶ。
新潟水俣病現地学習会 事前学習とふり返り 生きるⅢ「ある新潟水俣病患者の訴え」	１５	新潟水俣病に関する施設の見学を通して、新潟水俣病の正しい知識を身に付けるとともに、水環境を守っていこうという心情を育てる。
トゲソカルタ作成	３	トゲソや五泉市の豊かな水環境をテーマにトゲソカルタを作成し、トム・ソーヤスクール企画コンテストに応募。
発信活動	１５	トゲソや水環境、新潟水俣病に関して学んだことをまとめ、発信する。また、さらに学びたいと考える環境に関する課題を自ら選択し、調べ活動を行い、まとめる。
学習のまとめ	５	新潟水俣病の被害とその後について学ぶ。多くの患者さんが差別を受け、今でも苦しんでいる人々がいることを理解する。

○　協力団体・協力者等

・ＮＰＯ法人五泉トゲソの会（中村　吉則様・齋藤　明様）
・五泉市水道局（施設見学）
・阿賀町役場（江花　一実様）
・新潟市満願寺浄水場（施設見学・資料提供）
・新潟県下水道公社新津浄化センター（資料提供）
・新潟県立環境と人間のふれあい館
・一般社団法人あがのがわ環境学舎（山崎　陽様）

○　成果と課題

【成果】

・五泉市に生息する絶滅危惧淡水魚トゲソを通して、水の汚れの測定や生き物調査を行いながら、人が自然（水環境）を維持、守っていこうと考えるようになった。
・トゲソの会、環境と人間のふれあい館などたくさんの協力を得ながら、体験的な学習を進めることができた。
・新潟水俣病患者の方の苦しさを学ぶことで、自他の権利を大切にしようと考えるようになった。
・学習を進める中で、水の使い方をふり返り、水は資源であることを理解し、水の使い方を改める姿が見られた。

【課題】

・今回の学習をまとめ、発表して終わるのではなく、今後は環境保全、改善に向けた発信者として、子どもたちを活躍させていくには、どのように取り組むとよいのか、検討する必要がある。

写真資料



トゲソハウスの清掃。トゲソハウスに落ちたごみを網ですくったり、伸びすぎた水草を適切な長さに切りそろえたりした。



トゲソ学習会①。トゲソの生態について教えてもらった。その後、トゲソが数を減らしている理由について、みんなで考えた。



トゲソ学習会②。水の循環について考えた。また、生活で使用した水、水道水、新江川の水などの水質調査を行った。



トゲソ学習会③。トゲソの生息地の自然の豊かさを確認した。また、外来種の駆除活動に取り組んだ。



トゲソ学習会④。新江川の水質調査を行い、その後、トゲソや水生生物の採集を行った。



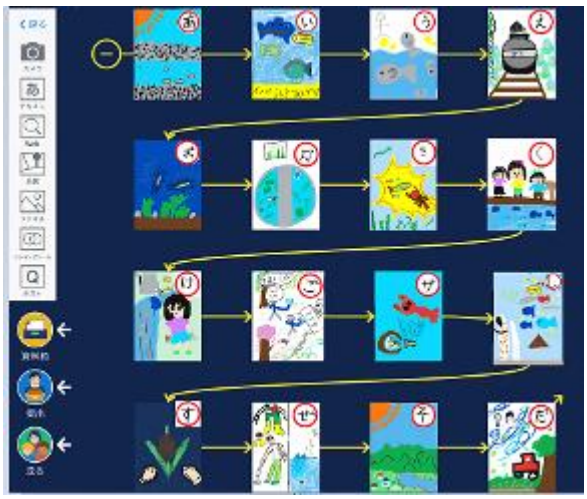
トゲソ学習会⑤。フィルターや活性炭を使用し、よごれた水を浄化する実験を行った。



当時の様子や新潟水俣病の症状、差別や偏見について話を聞いた。



環境と人間のふれあい館を訪れ、水質検査をしたり、新潟水俣病について資料を見ながら話を聞いたりした。



トム・ソーヤスクール企画コンテストに向けて、トゲソや五泉市の豊かな水環境をテーマにトゲソカルタを作成した。



学習発表会。それまでの学びを保護者や地域の方々へ発信した。

（様式３）　**小学校・中学校への地域の環境学習等支援事業に係る授業記録**

学校名	授業学級（人数）	実施日	実施教科等	授業者（職・氏名）
五泉市立川東小学校	１クラス（１６人）	12 月１日	総合 道徳	教諭　井村　早智

主題名　ある新潟水俣病患者の訴え

ねらい　新潟水俣病の原因追究や公害病認定にむけて懸命に取り組んできた人々の生き方を学ぶことで病気に対する差別をなくしていこうとする心情を高める。

配時（分）	教師の働き掛け	子どもの反応（学習活動等）	資料
5	新潟水俣病が発生した地域や病気の主な症状を思い出す。		・iPad ・生きる Ⅲ ・写真
	・これまでの学習が想起できるような資料を用意し、提示する。	発生した地域 ・今昔マップを使用し、旧昭和電工の場所を確認する。	
	・いつ頃、どこで、原因はなどの補助発問により県内で発生した公害病であることを再確認する。	主な症状 ・手足のしびれ・耳鳴り ・めまい・頭痛	
15	資料を読み、差別を受けた「わたし」の苦しみやその背景について考える。		
	・資料を範読する。 ○阿賀野川は昔の人々にとってどんな存在だったのだろう。	・大好きな遊び場。・魚とりをして食べていた。 ・川魚をとって毎日食べていた。	
	○「わたし」の心や体、家庭を壊した原因は何だろう。	・周りの人が理解してくれない。・焦りや不安。 ・原因が分からなかったことがつらい。 ・差別の言葉、偏見の目で見られること。 ・仕事や家事も上手くできない。	
10	○なぜ「わたし」は病気の苦しみや差別、偏見に負けず生きていくことができたのだろう。	・自分を頼りにしてくれる人、共に戦ってくれる人が支えだったと思う。 ・自分たちと同じように苦しんでいる人たちのために。 ・二度と同じようなことが起きないようにするために。	

5 10	○もし、あなたが「わたし」と接するなら、どのようなことを大切にしますか。 ○今までの学習をふりかえり、「わたし」への励ましの手紙を書きましょう。	・「わたし」の思いや気持ちをきちんと聞いてあげたい。 ・差別や偏見をもたず、接していきたい。 ・差別や偏見を許さず、患者に寄り添い、ともに行動しようとする気持ちを高める。	



授業後の子どもたちの考え等（作文等）

・差別や偏見にも負けず、闘い続けた「わたし」はすごいと思いました。

・水俣病について、もっと学びたいと思いました。そしてたくさんの人にも正しく理解してほしいと思いました。

・新潟水俣病は治らない病気と聞いて、こわいなと思いました。早く治療法が見つかってほしいです。

（様式２）　　小学校・中学校への地域の環境学習等支援事業 実施報告書

学校名	五泉市立村松小学校	担当(職・氏名)	4年担任　星野裕貴
学習テーマ	五泉市に生息する魚のトゲソやサケ、近くで起きた新潟水俣病を通して、水環境について学ぶ。		
活動のねらい	トゲソやサケの生態を学んだり、川の環境調査や水質検査、浄化実験を行ったりすることを通して、人間の生活が川や自然に負荷をかけていることを知り、水環境への関心を高める。 新潟水俣病について知り、健康的で安全な暮らしのために水環境を守ろうとする意識を高める。		

○　新潟水俣病とのかかわり

人間の生活による水質の悪化によりトゲソが絶滅に瀕していることを知る。サケの稚魚飼育と放流を行い、海に出たサケが再び帰ってくることができる水環境を作らなければいけないことを知る。また、「阿賀のお地蔵さん」を教材とした授業や、公害に関する調べ活動から、人間による水の汚染がトゲソやサケなどの水生生物だけでなく、人間の健康や安全にも関わっていることを学ぶ。これらの活動を通して、未来の水環境を守るための方策について一人一人が考えていく。

○　活動概要　（新潟水俣病とのかかわりについての内容に触れてください。）

五泉に生息するトゲソの生態を学び、生息地を見学した。トゲソが絶滅に瀕しているのは水の汚れが原因であることを知った。簡易 COD パックテストや川の観察、水生生物調べなどにより、人間の生活に関わる排水が汚れの大きな原因であることを学んだ。さらに、水の浄化実験や水をめぐる世界情勢などの学習を通して、水環境維持のためには人々の努力が必要であることを学んだ。

食料や水産資源としての側面のあるサケを飼育し、稚魚の放流活動を行った。かつて新潟水俣病は川魚を食べることによって罹患者が増えた経緯を知り、魚も人間も安心できる水環境作りの必要性を学んだ。

「阿賀のお地蔵さん」を教材とした授業を行い、新潟水俣病患者や住人の苦しみについて考えた。水が汚れることと病気になることの関係に興味を持ち、公害に関する調べ学習を行った。

学んだことを新聞にまとめて掲示した。また、学習発表会や学校交流会で発表をし、水環境を守っていくことについて、家庭や地域の人々に協力をお願いした。

○　活動詳細

トゲソの会の方に講師をしていただき、5回にわたってトゲソや水の環境に関わる授業、見学、実験を行った。

実施期間	令和5年6月～令和6年3月

主な学習内容・活動内容	時間	指導・支援の内容
①6月8日（木）	9:35～11:25	トゲソの生態や環境について知る。
②6月15日（木）	9:00～12:00	トゲソの生息地の見学を行う。水温及び水路の観察と、ザリガニ駆除の手伝いを行う。
③6月22日（木）	9:35～11:25	水の循環について考える。COD テストで3種類の水の汚れについて調べる、新聞にまとめ掲示する。
④9月7日（木）	9:35～11:25	地域の川（滝谷川）の水質と、住んでいる水生生物について調査する。
⑤9月14日（木）	9:35～11:25	水の浄化実験を行う。水の汚染により新潟水俣病が起きたことを知る。

⑥10 月 20 日（日）	9:35～11:25	学んだことを学習発表会で保護者や地域の人に向けて発表する。
⑦11 月 6 日（水）	9:40～10:20	サケの人工授精見学。サケの飼育方法を知る。
⑧11 月 29 日（金）	9:40～10:20	サケの捕獲場見学。サケが海から川に帰ってくることを知る。
⑨12 月 6 日（水）	13:15～14:15	「阿賀のお地蔵さん」を題材にした道徳授業を行う。新潟水俣病の被害者の心情について考える。
⑩2 月 5 日（月）	11:30～12:15	学んだことを学校交流会で発表し、他校や市関係者に向けて発表する。
⑪2 月下旬		水環境や新潟水俣病について調べ学習を行う。
⑫3 月 5 日（火）	9:40～10:20	鮭の稚魚を放流する。川の環境が変わってしまうと帰ってくることができないことを知る。

○　協力団体・協力者等（※この欄の必要が無ければ削除してください。）

特定非営利活動法人五泉トゲソの会　能代川サケマス増殖組合

○　成果と課題　（※成果と課題を分けて記述してください。水俣病とのかかわりの内容に触れてください。）

【成果】

五泉市に生息するトゲソについて調べることや水の循環、水質調査、川の観察、浄化実験を通して、水環境への関心を高めることができた。また、水の汚れは人間の生活が起因することが大きいこと、きれいな環境を保つためには人々の努力が不可欠であることを学ぶことができた。

サケの飼育・稚魚放流活動では、サケの生態を知り、また帰ってきてほしいという思いから、水環境を守っていこうという気持ちを強めた。

新潟水俣病などの事例を通して、人が水を汚染することで、水生生物だけでなく、人の健康や安全もおびやかされることがあることを知った。サケの学習をしていたこともあり、川魚と人間の関係についても理解を深めることができた。また、道徳の授業で新潟水俣病患者やその地域の人が苦しんできたことを学び、水の汚染で再び人々が苦しむことがないように自分たちにできることは何か、水環境を守ろうとする意識が高まった。

【課題】

水環境への意識が高まり、学んだことを様々な場で発表した。これらの呼びかけで、保護者地域の人の意識がどのように変化したかが分かると、児童の学習もより一層充実する。アンケートなど、意識を探る方策を今後検討していきたい。

【活動成果参考写真】



①6 月 8 日トゲソを知る


②6 月 15 日トゲソの里見学


③6 月 22 日水の循環・COD



④9 月 7 日滝谷川の観察



⑤9 月 14 日水の浄化実験



⑥10 月 22 日学習発表会



⑦11 月 6 日人工授精見学



⑧11 月 29 日捕獲場見学



⑨12 月 6 日道徳授業



⑩2 月 5 日学校交流会



⑫3 月 5 日サケの稚魚放流

（様式３）　**小学校・中学校への地域の環境学習等支援事業に係る授業記録**

学校名	授業学級(人数)	実施日	実施教科等	授業者(職・氏名)
五泉市立村松小学校	**4年1組(24人)** **4年2組(23人)**	**12月6日**	**道徳**	**教諭　池端真琴** **教諭　星野裕貴**

主題名　みんなが仲良くくらしていくために　2ー（2）思いやり・親切

ねらい　　地域が差別や偏見によって結び付きを失う様子や結び付きを取り戻すために行動する人の姿を学習することを通して、相手の立場を想像し、相手のことを考えた言動の大切さに気付き、自らも相手に親切な行為を行おうとする心情を高める。

資料　「お地蔵さんにこめられた願い」　（新潟水俣病の教訓を後世に伝えるために　新潟水俣病教師用指導資料集 P29～41）

配時(分)	教師の働き掛け	子どもの反応（学習活動等）	資料
5	阿賀野川のほとりの小さな村は、どんな様子でしたか。 ○教師による模範を行った後、水俣病にかかる前の村の様子を読み取らせる。	●小さな村だけど、にぎやかで楽しそう。 ●川魚や野菜を分け合っていて、とても仲のよい村だった。	・読み物資料「お地蔵さんにこめられた願い」 ・仲よくしている村人の絵
5	強いきずなで結ばれていた村は、水俣病によってどうなりましたか。 ○水俣病の後の村の様子を読み取らせる。	●仕事がなくなった。 ●みんなで話をすることが少なくなった。 ●みんなの心がバラバラになった。	・怒ったり、悲しんだりしている村人の絵
10	病気に苦しんでいる上に、さらにかげ口をいわれるAさんの気持ちを考えましょう。 ○ロールプレイ1を行い、かげ口を言われる患者役として感じたことを発表させる。	●かなしい。何で認めてもらえないのか。 ●うそだと決めつけられて腹が立つ。	・ワークシート
5	どうすれば、もとの仲のよい村にもどれるのでしょうか。 ○旗野さんの言葉を読み、旗野さんが仲のよい村にもどすために行ったことを伝える。	●たしかに変わるのはお地蔵さんではなくて、自分たちだ。 ●相手のことを考えてあげられるようになりたい。	・旗野秀人さんと「阿賀のお地蔵さん」の写真 ・旗野秀人さんの言葉
10	旗野さんの「相手のことを思った言葉」とは、どんな言葉でしょう。 ○患者にかける言葉を考え、ロールプレイ2を行う。言葉を言われたときの心情を発表させる。	●「大丈夫。」と声をかけてもらい、嬉しい気持ちになった。 ●「協力するね。」と言われて、味方がいるんだと思い安心した。	

10	自分の思いや考えを伝えたい相手を選んで、手紙を書きましょう。 〇以下の中から相手を選んで、自分の思いを手紙に書く。 ア　水俣病と認められずにかげ口を言われていた人 イ　かげ口を言っていた人 ウ　旗野さんへ		・手紙の用紙

授業後の子どもたちの考え等(手紙の中から一部抜粋)

【ア　水俣病と認められず、かげ口を言われていた人たちへ】

・水俣病と認められず、つらい思いをしましたね。きずつけ合うのではなく、昔のように仲よくくらしてほしいと思います。

・かげ口を言われて辛かったですね。安心してくださいね。

・わたしは信じています。無理をせず、ゆっくり休んでください。苦しい生活かもしれませんが、わたしは応援しています。みなさんの味方です。

・かげ口を言われてつらかったですね。これからはやさしい心でみんなで助け合えるはずだと思います。応援しています。

・水俣病になり、差別をされてとても苦しそうでしたね。私も水俣病の人のことを考えて、苦しさを理解してあげられる人になりたいと思いました。

【イ　かげ口を言っていた人たちへ】

・自分が病気になっているのにかげ口を言われたら、と考えてみてください。

・「お金が欲しいだけなんだろ。」と言った相手が、もし病気だったらどう思うでしょうか。

・同じ村の仲間ですよね。ニセ患者だなんて言わないで、名前で呼んでください。

・本当のことを言っているのにウソだと言われたら、ぼくだったらきずつきます。お話を聞いてみるのはどうでしょうか。

・きっと仲直りできるはずです。あやまるのは勇気がいるけど、がんばってください。

【ウ　旗野さんへ】

・お地蔵さんをたてるアイディアがすごいと思いました。

・「お地蔵さんがなんとかしてくれるのではなくて、自分たちが変わらないといけない」という言葉に少しどきっとしました。

・旗野さんのように、みんなが仲よくできるように行動できる人になりたいです。

・かげ口を言っていた人たちにも、「仲よくしようよ。」と言える旗野さんがとてもやさしいと思いました。わたしも見習いたいです。

（様式２）　　小学校・中学校への地域の環境学習等支援事業 実施報告書

学校名	愛宕小学校	担当(職・氏名)	教諭・佐藤　肇
学習テーマ	「わたしたちを支える水」 五泉の水と環境に関わる調査活動を通して，豊かな水と人々のくらしや環境が関わっていることを理解し，きれいな川や海にするために自分たちができることを考え，自らの行動に生かす。		
活動のねらい	・五泉の豊かな水がもたらした農産物や生物，きれいな水を保とうとする人々の努力や思いが分かる。 ・身近な地域の水に関わる疑問をもとに課題を設定し，必要な情報を収集し，複数の情報を比較しながら問題を解決し，相手や目的に応じて分かりやすく表現する。 ・身近な地域の水に関心をもち，協働的に学びながら自分にできることを考える。		

○　新潟水俣病とのかかわり

・排水処理について学ぶ中で，かつて工場排水が原因で新潟水俣病が発生し，今も病気や差別で苦しんでいる人々がいること，多くの人々の努力によって阿賀野川がきれいな川に再生したことなどを学ぶ。
・新潟水俣病被害者の救済や，絵本「阿賀のお地蔵さん」の作者として，今も全国で講演活動をされている旗野秀人さんから，「阿賀のお地蔵さん」に込めた思いを学ぶ。

○　活動概要（新潟水俣病とのかかわりについての内容にふれてください。）

・五泉トゲソの会の中村吉則さんから、五泉に生息するトゲソの生育環境，なぜトゲソがいなくなったか，水の環境汚染について学ぶ。
・「新潟水俣病学習用動画　新潟水俣病をもっと知ろう！学ぼう」を視聴し，新潟水俣病について知る。
・あがのがわ環境学舎の山崎陽さんから，新潟水俣病はなぜ起きたのかを詳しく学ぶ。
・旗野秀人さんから，「阿賀のお地蔵さん」の読み聞かせをしていただき，「阿賀のお地蔵さん」が作られた背景を学ぶ。
・保護者に，自分たちが学んだこと，自分たちができることを発表する。

○　活動詳細

実施期間	令和５年４月～令和６年３月（７０時間）	
主な学習内容・活動内容	時間	指導・支援の内容
五泉のチューリップ・れんこん・牡丹栽培と水	１２	五泉のチューリップ・れんこん・牡丹栽培は，川によって運ばれた堆積物や伏流水が関係していることを学ぶ。
五泉の伏流水と浄水のしくみ	５	五泉は，砂の層によってろ過されたきれいな地下水が水道水として使われていることを学ぶ。
トゲソはなぜ少なくなった？	９	五泉トゲソの会から，トゲソの生育環境，生息地，天敵駆除，水の循環と環境汚染，水の浄化について学ぶ。
早出川の水はきれい？	６	早出川の水生生物調査を行い，きれいな水にすむ水生生物について知る。
阿賀野川の水害と防災のあゆみ・水防施設	９	阿賀野川にあった水害の歴史と，早出川ダム・太田川排水機場・災害対策車等の役割やしくみを学ぶ。
下水処理のしくみ	４	下水はどのように処理され，再び川へと流れていくのか学ぶ。
新潟水俣病って？	５	あがのがわ環境学舎の山﨑陽さんから、新潟水俣病が発生した原因や，どのような被害や差別があったかを学ぶ。 旗野秀人さんから、「阿賀のお地蔵さん」が作られた背景を学ぶ。
生活排水はどのくらい水を汚す？	３	生活排水のＣＯＤパックテストを通して，生活排水がいかに水を汚しているかを学ぶ。
自分たちにできることは？	７	家の人へのアンケートをもとに，これまで学んだことをまとめ，自分たちにできることを保護者に向けて発表する。

もっと多くの人にＰＲするには？	１０	もっと多くの人に､水を汚さないために自分たちができることを知ってもらうために，リーフレットを作る。

○　協力団体・協力者等

・新潟県花卉球根農業協同組合　・五泉アグリセンター
・村松浄水場　・五泉トゲソの会　・阿賀野川河川事務所　・早出川ダム
・太田川排水機場　・満願寺出張所　・新津浄化センター
・あがのがわ環境学舎　山﨑陽さん　・旗野秀人さん

○　成果と課題

【成果】

・農産物や絶滅危惧種のトゲソ，きれいな水にすむ水生生物などは，五泉の豊富な地下水が支えていることが分かり，大切にしたいという思いをもった。
・トゲソや新潟水俣病の学習を通して，人間が出す排水に関心を深くもち，生活排水のＣＯＤパックテストの調査や保護者へのアンケートなどから，自分たちにできることを発信したいという思いをもった。
・新潟水俣病による被害とともに，偏見や差別，絆を取りもどす努力なども知ることができた。

【課題】

・五泉にも被害者がいることは分かったが，語り部の方から直接お話を聞く機会がもてると，より身近な問題ととらえられてよい。

【活動成果参考写真】



五泉アグリセンター



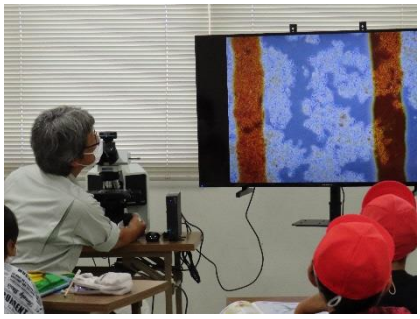
村松浄水場



トゲソの生息地調査



早出川水生生物調査



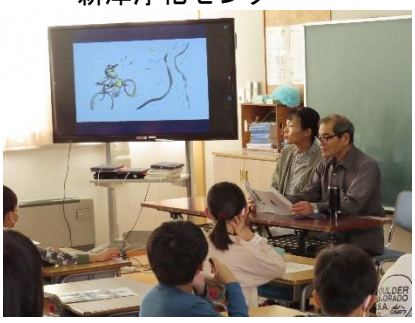
新津浄化センター



ＣＯＤパックテスト



新潟水俣病の発生原因



阿賀のお地蔵さん



保護者への発表

（様式３）　**小学校･中学校への地域の環境学習等支援事業に係る授業記録**

学校名	授業学級（人数）	実施日	実施教科等	授業者（職・氏名）
五泉市立愛宕小学校	４年１組（36 人）	9／26（火）	総合	教諭・佐藤　肇

単元名　「わたしたちを支える水」

ねらい　新潟水俣病の概要，発生原因，症状，差別や偏見などを知り，水を汚さないようにしたい，偏見や差別のない社会にしたいという思いを高める。

時間（分）	教師の働き掛け	子どもの反応（学習活動等）	資料
5	（前時に「新潟水俣病をもっと知ろう！学ぼう」を視聴させ，概要を知らせておく。） ○あがのがわ環境学舎の山﨑さんから，さらに詳しく説明していただく。		・パワーポイント「新潟水俣病の知ろう・学ぼう」
	新潟水俣病ってどんな公害ですか？		
5	○阿賀野川が汚染されて起きたこと，工場が流した有機水銀が原因だったこと，汚染された川魚をたくさん食べて発症したことをおさえる。	●有機水銀で手足がしびれる。 ●熱さが分からなくなる。	
	有機水銀がどのようにして人の体に入ったのでしょう？		
5	○プランクトン，水生昆虫,川魚，人間という食物連鎖を通じて，有機水銀が何十万倍もたまったことをおさえる。	●有機水銀を食べた魚を人が食べた。	
	もし今，川に有機水銀が流れたら，新潟水俣病はまた起きるかな？		
１０	○今は，昔のように大量に川魚を食べないので起きないこと，昔は川魚が中心の食事だったことをおさえる。	●起きる。	
	新潟水俣病は，どのような被害があったのでしょう？		
	○最初のころは，重症者が多く，死者も出たこと，被害者は裁判を起こして勝ったこと，差別や	●手足がしびれる。 ●見た目では分からなくて，差別される人がいた。	

	偏見があったこと，手足がしびれたり感じにくくなったりする症状があることなどをおさえる。		
１０	なぜ工場から有機水銀が発生してしまったのでしょう？		
	○昭和電工が，石灰岩と鹿瀬ダムの電力を使って肥料を作っていたが，アセトアルデヒドを作るようになって有機水銀が発生してしまったことをおさえる。	●工場から出る汚れた水の中に，有機水銀が混じっていて，そのまま流していた。 ●有機水銀が出る製品を作っていた。	
１０	今日，新潟水俣病の学習で学んだことは何ですか？		
	○新潟水俣病の学習を振り返って学んだことを書かせる。	●昔の人は，たくさん川魚を食べていたことが分かった。 ●ひどい差別や偏見があったことが分かった。	

授業後の子どもたちの考え等（作文等）

・新潟水俣病の被害者は，３０００人以上いることが分かってびっくりした。
・今の人たちは，川魚をほとんど食べないから，有機水銀が流れても新潟水俣病にならないということが分かった。
・昔は，子どもたちがたくさん川魚をとっていて，川魚が主な食事だったことが分かった。
・新潟水俣病の被害者は，裁判に勝ったけど，「ニセ患者」や「金目当て」などの悪口やかげ口を言われて苦しんでいる人が多くいたことが分かった。
・新潟水俣病の症状は，手足のしびれや立ちくらみなど，外見では見分けがつかず，他人から理解されにくいということが分かった。
・昔の昭和電工は，３７００人もの人が働く大工場だったことが分かった。

（様式２）　　小学校・中学校への地域の環境学習等支援事業 実施報告書

学校名	上越市立柿崎中学校	**担　当** **（職・氏名）**	教諭　　小林真史
学習テーマ	健康で安全な暮らしを守るために、私たちにできることを考えよう。		
活動のねらい	１海岸に漂着する廃棄物の調査を通して、身近な暮らしを支える上で、海及び川が果たしている役割の重要性を理解する。 ２新潟水俣病の発生の過程や原因を多面的に理解する。 ３地域の自然環境や私たち自身の安全で健康な生活を守るための方策を考える。		

○　新潟水俣病とのかかわり

新潟水俣病のような悲劇を繰り返さないために、次の２点について理解することが重要である。

①新潟水俣病の発生過程や原因を多面的に理解すること。

②海岸に漂着する廃棄物の責任は、プラスチック製造企業だけでなく、製品を購入する消費者にもあること。

○　活動概要

<table>
<tr><td colspan="6">１学年（総合的な学習の時間）</td><td rowspan="4">・体験活動
・映写会
・発表会</td><td rowspan="4">☞</td><td rowspan="4">振り返り</td></tr>
<tr><td>柿崎の海の素晴しさを知る</td><td>☞</td><td>課題把握</td><td>☞</td><td>ICC※の実施</td><td>☞</td></tr>
<tr><td colspan="6">環境委員会</td></tr>
<tr><td>水俣病について学ぶ</td><td>☞</td><td>ICC 動画作成</td><td>☞</td><td>水俣病学習</td><td>☞</td></tr>
</table>

※ICC…International Coastal Cleanup の略称　「国際海岸クリーンアップ」とも呼ばれている。海のごみ問題に世界的規模で取り組んでいる

○　活動詳細

実施期間		７月～２月		
主な学習内容・活動内容		時間		指導・支援の内容
１学年	環境委員会	１年	環境	
海岸の貝殻・植物の調査		2		・柿崎中央海岸に自生する植物と漂着している貝殻の写真撮影
貝殻や植物の種類を調べる		2		・グーグルレンズや図鑑で海岸に自生する植物と漂着している貝殻調査
発表会		2		・クラス毎によるグループ発表
海岸に漂着するゴミ調査	水俣病について学ぶ	4	8	・ゴミを分類しながら、海岸に漂着するゴミを調査（1 年） ・環境と人間のふれあい館にて水俣病学習実施（環境）
ゴミがどこから来たか	ICC の CM 動画作成	2	10	・ゴミの種類等の分析及びゴミの出所についての考察（1 年） ・ICC 実施に関する一般参加者募集のための CM 動画作成（環境）
ICC の準備	水俣病学習準備	4	10	・役割分担、事前準備（1 年・環境）
ICC の実施		5		・1 年生中心で ICC を実施。（1 年）
発表会準備	水俣病学習	4	1	・2 年前の ICC データ及び調査地点と今年度との調査の比較 ・今年度の調査地点の特色やゴミをなくすための方策の検討 ・新潟水俣病の認知に至る経緯、病状、差別等に関する学習会 ・学習会の定着度確認のためのクイズ実施
発表会・映写会・体験活動		4	1	・１年生が ICC の結果と考察の発表 ・環境委員会による実践報告及びアンケート調査の結果（全校実施）に基づく活動の振り返り ・海の自然史研究所によるワークショップの実施 ・カフェテリアカルチャーによる「プラスチックストーリー」の視聴

振り返り	1	・発表会の振り返り（全校生徒）。 ・１年生…ワークショップ・映写会の振り返り。 ・２年生…映写会の振り返り。

○　協力団体・協力者等

柿崎漁港・JEAN・上越市立水族館・カフェテリアカルチャー・NPO 法人海の自然史研究所
JCV（上越ケーブルビジョン）・上越タイムス

○　成果と課題

【成果】

〈１学年〉

１学年では、柿崎の海岸のよさを学んだ後、海岸のゴミ調査、場所毎のデータ比較、２年前に実施したＩＣＣデータとの比較・分析等、各種資料に基づいて考察を行ったことにより、海洋環境に対する意識が高まった。

また、海の自然史研究所によるマイクロプラスチックに関するワークショップをとおして、今までの学習活動を意味付け、海洋ゴミに対する危機感を再確認することができた。さらに、映画を視聴したことで、給食時のストローの使用を問題視し、プラスチックをできるだけ使わないように心がけようと行動に移す生徒が出てきた。

今回のワークショップや映写会のように、専門機関と連携することによって、学校の授業だけでは得られない大きな成果を上げることができるということが明らかとなった。

〈環境委員会〉

環境委員会は、８月８日に「新潟県立環境と人間のふれあい館」へ訪問し、新潟水俣病学習会を実施した。ビデオ視聴、展示物についての説明、患者からの講演等により、生徒たちは新潟水俣病学習に対する高いモチベーションを得た。

水俣病学習は、昼休み後の 25 分間を利用した生徒集会において実施した。環境委員が「環境と人間のふれあい館」での学習成果を基に作成した資料を全体に発表した。さらに、翌週は、全校生徒に ipad を持たせ、クイズ用のアプリを利用し、小グループに分かれてクイズ形式で学習内容について問う活動を仕組み、大変盛り上がった。

この活動で生徒たちの「新潟水俣病」に対する理解は大きく進み、感想の中でも、水俣病の発生原因、症状、差別について詳述するなどの成果をあげることができた。

教師による一方的な説明よりも、生徒同士が自主的にやり取りを重ねること活動を通して生徒の理解が進むということが確認できた。

【課題】

〈１学年〉

10 月５日に予定されていたＩＣＣが悪天候で中止となった。最終的に 10 月下旬に１学年だけで実施したものの、一般参加者もなく、保護者の参加も少なかった。生徒以外の参加者の募り方について課題が残った。

〈環境委員会〉

環境委員会が作成したＩＣＣへの参加を広める動画は、地元のケーブルテレビでも取り上げていただくほど、力のこめられた作品であったが、一般生徒があまり視聴していないことが古語アンケートから確認された。今後は、全校生徒が一度視聴した後に、ケーブルテレビに持ち込んむなどの工夫が必要である。

（様式３）　**小学校・中学校への地域の環境学習等支援事業に係る授業記録**

学校名	授業学級（人数）	実施日	実施教科等	授業者（職・氏名）
上越市立柿崎中学校	6 クラス（210 人）	2 月 1･7 日	専門委員会	小林真史（教諭・小林真史）

主題名　水俣病学習（環境委員会主催）

ねらい　・新潟水俣病の発生原因・訴訟や現在に至る過程について理解する。

・新潟水俣病の患者に対する人権侵害や苦悩について理解する。

配　時（分）	学習過程	子どもの反応（学習活動等）	資料
2月1日			
10 分	水俣病の概要を知る	ビデオを視聴する	環境と人間のふれあい館～新潟水俣病資料館～ 『新潟水俣病』
10 分	水俣病に対する知識を深める。	生徒による発表 『新潟水俣病と差別について』 『高度経済成長期と、政府の対応の関係性について』	『新潟水俣病のあらまし』 『はじめての新潟水俣病』 『新潟水俣病が教えてくれたもの』
5 分	知識の定着を図る	iPad のクイズをするカフートを活用し、発表内容やビデオの内容に関するクイズを全校でグループごとに行った。	
2月7日			
10 分	水俣病に対する知識を深める。	昼の放送で生徒の発表 『食物連鎖で起こった生物濃縮について』 『症状と死亡率、治療法について』	『新潟水俣病のあらまし』 『はじめての新潟水俣病』 『新潟水俣病が教えてくれたもの』
25 分	知識の定着を図る	2/1,7 の発表やビデオの内容についてカフートによる全校グループ別のクイズを行う。	

授業後の子どもたちの考え等（作文等）

①水俣病は昔のことで、私には関係のないことだと思っていたけれど、発表を聞いて、今でも苦しんでいる人がいることを知りました。今後、このようなことが起こらないようにしたいと思いました。

②新潟水俣病の原因になった水銀がどの工場から出ていたのか、政府の対応について新たに分かりました。

③水俣病が発生して何十年もたつのにまだ裁判が終わっていないことにびっくりしました。

④体内に水銀が入るまでの経路がよくわかりました。

⑤体内や運動能力などの低下や後遺症が残るということだったので、とても怖いものだなと分かりました。

⑥新潟水俣病の原因になった工場や水銀について分かりました。また、これにより苦しんでいる人々がたくさんいることが分かりました。

⑦小学校の頃に水俣病によって起きた差別を学んだが、水俣病の詳しいことは知らなかった。環境委員会の活動で、発生した原因や一旦発症するとどうなるのかが分かって良かった。

⑧新潟水俣病に対する偏見がいまだに残っていることに驚いた。この差別を早く解決し、差別によって苦しむ人がいなくなったらいいと思いました。

⑨新潟水俣病はもう、おさまっていると思ってたけど、水俣病になった人に対する差別がまだ収まっていないと知り、解決しないといけない問題だと思いました。

⑩クイズもあって、友達と新潟水俣病について深く知ることができた。

⑪川に排出された水銀が食物連鎖の過程で、だんだんと濃度が濃くなっていくことが分かった。

地域の特色を活かした
環境学習支援事業

■様式２：令和５年度「地域の特色を活かした環境学習等支援事業」実施報告書

学校名	新潟市立葛塚東小学校	担当(職・氏名)	教諭・高橋　賢人
学習テーマ	葛塚を食べよう！／水環境を考える～水と人が仲良く暮らすために～		
活動のねらい	自然環境と食文化について、地域の水環境や新潟水俣病と向き合い、問題を見出し、体験したり調べ活動をしたりすることを通して、地域の問題を環境の視点から見直し、考えるとともに、自らの生活や行動に生かすことができるようにする。		

○　新潟水俣病とのかかわり

葛塚地域周辺では阿賀野川につながる川や福島潟の水環境の恩恵を受けて生活している。私たちの生活を支える水環境では、新潟水俣病により苦しい生活を余儀なくなれた。また、豊かな川や潟の食料も忘れ去られていった。そこで、新潟水俣病の歴史と教訓を学ぶことで、新潟水俣病の被害者が抱えてきた痛みに真摯に向き合い、同じような悲惨な公害が二度と繰り返されることなく、川の恵みを大切に、誰もが安心して暮らすことのできる環境を目指そうとする心情と態度を育む。

○　活動概要（新潟水俣病とのかかわりの内容に触れてください。）

米づくりの学習を進める中で、水の大切さについて学習した。葛塚周辺の水は近くの福島潟や阿賀野川の恩恵を受けていることに気付いた。この水環境が保たれているの背景には、干拓の歴史だけでなく、新潟水俣病との歴史があることを知り、調べ学習を行った。子どもたちは、調査活動や環境と人間のふれあい館への校外学習、語り部からの講話を通して、新潟水俣病の発生原因や発病した人の症状、発病した人々の苦しみについて理解を深め、自分たちはこれからどう暮らしていくとよいのか考えた。

○　活動詳細

実施期間	令和５年５月　～　令和６年２月

主な学習内容・活動内容	時間	指導・支援の内容
米づくり体験	１４	・田植え、稲刈り、脱穀、はさ掛けの体験。 ・観察。 ・米づくりの盛んな理由の調査。
葛塚の食調べ	１２	・葛塚周辺で生産、販売、流通している食についての調査。 ・調査のまとめ方。 ・白地図で食に関わる場所を確認
葛塚の水環境調べ	６	・白地図をもとに、葛塚周辺の水環境を確認。 ・福島潟の環境と食文化の調査。

新潟水俣病について	１４	・新潟水俣病やそれに苦しむ人々の様子について。 ・調べ方や分かったことのまとめ方。 ・社会科や道徳の時間、総合的な学習の時間等、教科横断的に事実やそこに暮らした人々の気持ちの理解。 ・県立環境と人間のふれあい館での調査。
葛塚の食 MAP づくり	１４	・葛塚の食と水環境についてまとめた MAP の作成。 ・葛塚の食に力を入れている方へのインタビュー調査。 ・調査活動の発表。
新潟水俣病の語り部の講話	２	・新潟水俣病に苦しむ人々のがんばって生きていこうとする気持ちの理解。
これからの水環境とわたしたちの暮らしについて	８	・これからの自分たちの水環境との付き合い方について考え、まとめる。 ・自分たちの考えの発信。

○　協力団体・協力者等（※この欄の必要が無ければ削除してください。）

・米づくり体験：JA 熊木様、本間様、ボランティア様

・葛塚の食調べ：本間様、JA 窪田様、大倉様

・水環境調査、新潟水俣病：県立環境と人間のふれあい館職員様、語り部：曽我様

○　成果と課題　（※成果と課題を分けて記述してください。水俣病とのかかわりの内容に触れてください。）

【成果】　○日本四大公害病の一つである新潟水俣病がとても近い場所で起こったということで、公害問題をより身近な問題として捉え、関心を高めて考えさせることができた。

○学校から歩いていける範囲に「県立環境と人間のふれあい館」があり、施設見学や解説を通して、新潟水俣病の概略や経緯を学ぶことができた。また、語り部からも実際の体験談や現代を生きる私たちへの思いを直接聞くことができ、新潟水俣病を他人事ではなく、より自分事として捉えさせることができた。

○総合的な学習で、地域の食についても学習を進めており、地域の食文化と阿賀野川、福島潟、新潟水俣病を関連付けて学習を進めていくことで、福島潟の食文化に気付くことができた。新潟水俣病を乗り越えて、福島潟の食文化も戻ってきていることが分かり、米や魚だけでなく、阿賀野川を中心とした水環境の恩恵を多く受けていることを実感し、新たな地域の魅力を発見することができた。

【課題】　△社会科の単元と合わせて、環境と人間のふれあい館の見学を 11 月に実施したが、もう少し早い時期に実施することができれば、もう少し深く新潟水俣病と水環境と葛塚の食を関連付けて追究していくことができたのではないかと考えられる。

△児童がまとめたポスターを校内や保護者、一部の地域の方への発表だけでなく、環境と人間のふれあい館や区役所などに展示したり、発表したりとさらに広く発信させていきたい。

○米づくり体験









○新潟水俣病について～環境と人間のふれあい館の見学～









○葛塚の食 MAP づくり・発表





○新潟水俣病の語り部の講演





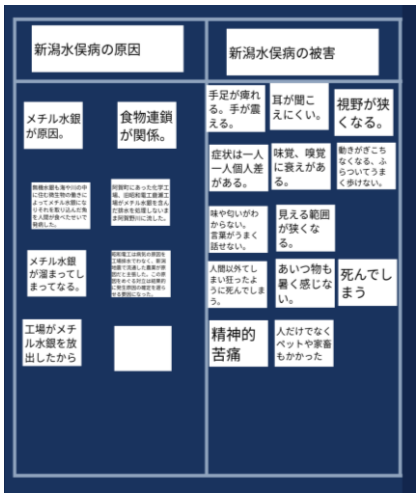
■様式３：令和５年度「地域の特色を活かした環境学習等支援事業」に係る授業記録

学校名	授業学級（人数）	実施日	実施教科等	授業者（職・氏名）
新潟市立葛塚東小学校	**5年3組（39 人）**	**11 月 28 日**	**社会**	**教諭　高橋　賢人**

・単元名　環境を守る人々

・ねらい

新潟水俣病について、新潟水俣病の発生原因と発生の経過、被害者の症状や苦しみなどを、資料を通して調べることを通して、被害者の苦しみや対応、新潟水俣病の教訓を生かした、人々の健康や生活環境を守るための取組へ関心を高め、追究の見通しをもつことができる。

配時（分）	教師の働き掛け	子どもの反応（学習活動等）	資料
5	○新潟水俣病について知っているか問う。 【学習課題】 新潟水俣病はどのような公害で、人々にどんな影響を与えましたか。	●聞いたことある。四大公害病の一つだ。 ●聞いたことあるけど、よく分からない。	・ P46の展開例
25	○資料「新潟水俣病が教えてくれたもの」・「新潟水俣病のあらまし」をもとに、新潟水俣病の発生原因や症状を調べ、ロイロノートに書かせる。  ○調べたことを発表させ、新潟水俣病の発生原因や症状について、全体でまとめる。	●メチル水銀が含まれた工場排水が原因になって発生した。 ●メチル水銀を含んだ川魚を人が食べて発症した。 ●川魚は貴重なタンパク源だった。 ●人だけでなくペットや家畜なども被害を受けた。 ●しびれやふるえなどの症状があった。 ●視野が狭くなったり、耳が聞こえにくくなったりした。 ●最悪の場合死んでしまうこともあった。 ●差別など、精神的な苦痛もあった。 	・ P46の展開例

10	【まとめ】 阿賀野川にメチル水銀を含んだ工場排水が流れ出て、メチル水銀を含んだ川魚を食べた人が発症した。しびれやまひなどの健康被害や差別を受けて、今も苦しんでいる。		・ P46の展開例
	○もっと調べたいことを意見交換し、課題意識を高める。 ○もっと調べたいことをもとに、これからの追究課題を設定する。	**●実際の被害を受けた人々の苦しみや思いはどんなものだったのか。** **●新潟水俣病の被害を受けた人はその後、どうなっているのか。** **●新潟水俣病を防ぐ取組は行われたのか。** **●阿賀野川はどのように現在のようにきれいになったのか。**	
	【単元課題】 新潟水俣病のような公害の防止やこれからも環境を守っていくために、国や人々はどんな取り組みをしているのか。		
5	○学習の振り返りをロイロノートに書かせる。	**●症状は辛いものばかりだったと分かった。** **●見た目に現れない人もいたからこそ、差別や偏見など想像以上にひどいことをされていたんだろうと思った。**	

・授業後の子どもたちの考え等（作文等）

振り返り

私は改めて水俣病について、勉強しました。水俣病は「四大公害病」の一つということを学びました。どれも症状が辛いものがたくさんあって大変だったんだなと思いました。
見た目には症状が現れないけど、かかっている人は想像以上にひどいことをされたということを教科書や資料を読み思いました。これからも、四大公害病、水俣病について調べていきたいです。

振り返り

私は、今日、社会の勉強で、水俣病について勉強をしました。メチル水銀を食べたプランクトンが魚に食べられて、メチル水銀をたくさん食べた魚を人間が食べてしまったので人間が、それのせいで手が動かなかったり、見た目で差別されて、仕事ができなかったりして苦しんでいる。私はかわいそうだと思いました。なぜなら、その人達は、何も悪い事はしていないのに、メチル水銀を食べた魚を、人間が食べて、その魚をたくさん食べてしまったので、そのせいで、差別されたりして、その人の心に深い傷を負って、しまって、かわいそうだと思いました。

振り返り

私は、新潟水俣病になった人たちは、なりたくてなったわけじゃないのに偏見や差別を受けたりして可哀想だと思いました。1965年～2018年まで水俣病が続いていて、その間、ずっと苦しみ続けた人たちがいると考えるととても可哀想だと思いました。だから、水俣病になった人達にあったら、差別などをせず、普通に接していきたいと思いました。また、手足が痺れたりすることもあるので、水俣病の人の気持ちに寄り添って接していきたいと思いました。

振り返り

僕は、新潟水俣病について勉強しました。水俣病はメチル水銀を取り込んだプランクトンを魚が食べてその魚を人間が食べることによって症状が出てくることがわかりました。僕は、水俣病に感染した人は差別や偏見をされてかわいそうだなと思いました。昔は伝染病、遺伝病などと差別をされていたこともわかりました。患者が裁判を起こしても「金が目当てなんだろ！」と信じられなくなっていってかわいそうだなと思いました。水俣病を忘れると昔苦しんだ人たちの苦しさを忘れるような気がするので、新潟水俣病をいつまでも忘れないようにしたいなと思いました。

■様式２：令和５年度「地域の特色を活かした環境学習等支援事業」実施報告書

学校名	新潟市立東山の下小学校	担当（職・氏名）	教諭　恩田　雄一
学習テーマ	学校近くを流れる川に住んでいる水生生物や水質を調査して，川の自然環境を調べよう。		
活動のねらい	水環境についての学習を通し，自然環境と人々のくらしとのかかわりについて考え，環境を保全していこうとする態度を育む。		

○　新潟水俣病とのかかわり

身近にある阿賀野川の公害により水俣病になった方の思いや経緯を知り，身近な環境を守ろうとする気持ちをもつ。

○　活動概要（新潟水俣病とのかかわりの内容に触れてください。）

・通船川の歴史について学び，今の川は先人の努力によりきれいになったことを知る。
・阿賀野川から通船川を通って信濃川までの水質の様子を見て，話し合う。
・通船川についてまとめる。
・環境と人間のふれあい館の館長さんの講話から，水俣病などの公害で苦しんでいる人がいることを知り，関心をもつ。
・環境と人間のふれあい館へ行き，阿賀野川と水俣病，水環境について学ぶ。
・通船川，水俣病，阿賀野川，水環境の４つの中で自分が追究したいことを決めて，その中で各自テーマに沿って，学んだこと，感じたこと，伝えたいことをまとめて，発表する。

○　活動詳細

実施期間	８月～11 月

主な学習内容・活動内容	時間	指導・支援の内容
通船川について学ぶ	３	・歴史について学ぶ ・採取した水とその場所を見て通船川の水が阿賀野川や信濃川の水より汚れていることに気付く。 ・「通船川物語」を読み，通船川についての理解を深めるとともに，先人たちの努力を知る。
阿賀野川と水俣病について学ぶ	５	・環境と人間のふれあい館の館長から阿賀野川と水俣病の話を聞く。 ・水俣病の語り部さんの動画を視聴し，水俣病のその後の差別やへん見を知る。 ・学習したことを学級でまとめる。 ・道徳の授業との関連で差別・偏見について考える。
調べたいことを追究する	３	・①通船川②阿賀野川③水俣病④水環境の中から４つの中で，もっと知りたいことを調べ学習をする。

グループ発表準備及び発表	6	・テーマでグループを作り，発表の準備を進める ・保護者の方に発表し，環境を保全するために自分ができることを主張する。

○　協力団体・協力者等（※この欄の必要が無ければ削除してください。）

・環境と人間のふれあい館

○成果と課題

成果

・環境と人間のふれあい館の館長の話を聞き，水俣病に関する知識を得て，差別・偏見を許さない態度をもつことができた。

・語り部さんの動画を視聴することで，水俣病の病気の辛さと心の辛さを理解することができ，自分の生き方を見直すことができた。

・環境と人間のふれあい館で，水俣病と環境汚染とのかかわりを実際に見たり聞いたりすることにより，環境と人々の暮らし，水俣病のかかわりについて，実感をともなって捉えることができた。

課題

・水俣病に対しての知識や差別に対する認識を深めることはできた。しかし，だめだとわかっていても，人間は差別をしてしまうことについて，道徳との関連で考える必要があると感じた。

環境と人間のふれあい館　館長さんの講話



環境と人間のふれあい館　阿賀野川・水俣病について







環境と人間のふれあい館　水環境について









環境と人間のふれあい館　水質検査





■様式３：令和５年度「地域の特色を活かした環境学習等支援事業」に係る授業記録

学校名	授業学級（人数）	実施日	実施教科等	授業者（職・氏名）
東山の下小学校	**36人**	**12月7日**	**道徳**	**教諭　恩田　雄一**

・主題名

ある新潟水俣病患者の訴え（生きるⅢ）－新潟水俣病差別問題から学ぶ－

・ねらい

新潟水俣病被害者に対する差別的な言動に憤りの気持ちをもち，差別者の立場から差別問題を考えることを通して，自分自身の中の差別意識に気付く。また，絶対に差別をしないという思いを強くする。

配時（分）	教師の働き掛け	子どもの反応（学習活動等）	資料
	○差別者の心中を想像する。 資料を読む。	●そんな差別ひどい。 ●どうしてそんな差別が起きるのか。	P155 資料2
	課題 差別を起こさないために，心掛けることは何か。		
	水俣病患者に，差別の言葉を言った人は，どうしてそんなことを言ってしまったのですか。その人になったつもりで考えましょう。		
	○差別の理由を整理する。	●なんとなく言った。 ●周りの人が言っているから。 ●自分にうつるかもしれないと思って，怖いから。	
	今みんなが考えたことは，差別していい理由になりますか。また，あなたはその言葉を許しますか。		
	○どんな理由であれ差別をしては絶対にいけないことを強調するとともに，誰もが差別者になる危険があることを伝える。	●ならない。その言葉は許せない。 ●みんなが言ったから，仕方なかったのかもしれない。	
	みなさんは自分のこれまでを振り返り，「あれは差別だった」と思うことはありませんか。		
	○日常生活の中で，友達や周りの人に対して差別的な言動をしてしまった経験を考えさせる。	●がんばっている人に対して「かっこつけている」と言ってしまった。 ●人に流されて，一緒に友達の悪口を言ってしまったことがある。 ●菌扱いをしてしまったことがある。	

		●友達から聞いたことをそのまま信用してしまったことがある。	
	どうして日常生活でも，そんな差別は生まれるのでしょうか。		
		●情報が正しいかどうかは別にして言ってしまうから。 ●友達や周りの人に流されてしまうから。 ●相手のことを考えられていない。	
	まとめ 被害者側の立場に立ち，正しい知識をもち，正しい行動を心掛ける必要がある。		
	○被害者からのメッセージを読む。		P156「強い勇気」
	自分自身の体験を振り返り，これから自分はどうしたいか書きましょう。		
	○書いたことをタブレット端末に提出させる。言える人に発表させる。	●わたしは，友達から聞いたことを本人に確認せず，他の人にも広めてしまったことがある。今後は，まず広めることをしないで，話している人を注意したいです。 ●周りの人に流されて友達の悪口を言ったことがあるので，人に流されないようにします。	

・授業後の子どもたちの考え等（作文等）

・この授業で，自分が今までの日常生活で差別をしたことがあることに気付きました。日常生活に差別があることも今回の授業でわかり，これからは差別に対する認識を変えていこうと思いました。

・今日の勉強で，自分が言っている言葉は，もしかしたら誰かを傷つけているのではないかと思いました。だから言葉を言うときは，言葉を考えて人が傷つかないようにしたいです。そして水俣病になった人たちは，差別でどれだけ苦しんで辛い思いをしているのかがわかりました。差別をしている人は，自分を守るために差別をしているのではないかと感じました。それでも差別は絶対にしてはいけないと思いました。

・人は無意識のうちに差別をすることがあることがわかりました。私が差別をしてしまったと思うことは少ししか思い付かなかったけれど，差別は知らないうちにしているかもしれないので，今までを振り返って差別がないように考え，生活をしていくことを大切にしようと思いました。それから，差別をされた被害者の方の気持ちもよく考えることも大切だと思いました。

■様式２：令和５年度「地域の特色を活かした環境学習等支援事業」実施報告書

学校名	新潟市立浜浦小学校	担当(職・氏名)	教諭・樋口大輔
学習テーマ	水から環境について考えよう		
活動のねらい	水という観点から，環境問題や私たちの生活について調べる活動を通して，公害や環境汚染の問題があることを理解し，それらを予防したり，なくしたりしていくための工夫を考えることができる。		

○　新潟水俣病とのかかわり

　環境と人間のふれあい館での調べ学習や語り部からの講話を聴く学習を通して，水とともに生きてきた新潟の人々が新潟水俣病によって苦しんだ経緯があることを理解し，似たような公害を予防するために何が必要なのかを考えて作文やポスターで表現する。

○　活動概要（新潟水俣病とのかかわりの内容に触れてください。）

①社会科の副読本「わたしたちの政令市新潟」を使い，新潟の人々は，潟を干拓しながらコメ作りをしたり，川の恵みを受けたりしながら，水とともに生活してきたことを理解する。
②ビデオ資料の視聴を通して，公害問題とは何かを捉える。
③環境と人間のふれあい館・水の駅ビュー福島潟で，人々の生活と新潟水俣病について調べる。
④学習から理解したことや考えたことを，作文やポスターで表現・発信する。

○　活動詳細

実施期間	１１月～　　１２月

主な学習内容・活動内容	時間	指導・支援の内容
新潟の人々は，潟を干拓しながらコメ作りをしたり，川の恵みを受けたりしながら，水とともに生活してきたことを理解する。	３	社会科の副読本「わたしたちの政令市新潟」を使い，現在と当時とを比べしながら，新潟が米の名産地になるまでに多くの潟を干拓したことや，潟や川で取れるものを生かして生活してきたことを確認した。
ビデオ資料の視聴を通して，公害問題とは何かを捉える。	１	環境と人間のふれあい館から貸し出されたDVDや，「新潟水俣病の教訓を後世に伝えるために(新潟水俣病教師用指導資料集)」を用いたスライドをもとに公害とは何かを理解し，次時の語り部講話や環境と人間のふれあい館での調べ学習に対する意識を育てた。
人々の生活と新潟水俣病について調べる（校外学習）。	４	新潟水俣病語り部の講話を通して，当事者が感じたことや考えたことに思いを巡らせるとともに，施設での調べ学習を通してこれまでの学習内容に対する理解を深めた。
学習から理解したことや考えたことを，作文やポスターで表現・発信する。	４	調べ学習や講話から学んだことをもとに考えたことをどのように発信するかを相談し，作文やポスターに表現しようということになった。作文は校外への発信として新潟水俣環境賞作文コンクールに応募し，ポスターは校内に掲示して啓発することにした。

○　協力団体・協力者等（※この欄の必要が無ければ削除してください。）

環境と人のふれあい館，新潟水俣病語り部　小町ゆみ子様

水の駅ビュー福島潟

○　成果と課題　（※成果と課題を分けて記述してください。水俣病とのかかわりの内容に触れてください。）

成果

・新潟水俣病をはじめとする公害への理解が深まった

　子どもたちは，自然環境の破壊が人間に大きな被害をもたらすものであると理解していた。身体症状などの物理的な被害だけではなく，周囲の無理解や差別などの，社会的な被害にも苦しむ人が多くいることを知り，自然環境を大切にする意味について理解を深める姿が見られた。

・講話を通して，伝える大切さについて考えることができた

　新潟水俣病語り部（小町様）の講話を通して，子どもたちは，被害者がなぜ語り伝えているのかを考えた。「このようなことを再び起こさないようにするため」や，「今の環境問題で自分にできることは何かを考えるため」といった背景に気付くことで，語り部の存在からも多くを学ぶことができた。

　語り部との出会いが，今回作文やポスターで学習の成果を発信しようとする姿勢につながったと考える。

課題

・学年の学習内容としての位置付け

　多くの学校での実践にあるように，新潟県では小学校５年生の社会科と関連させて新潟水俣病について学習する機会を設けている。今回は小学校４年生の総合的な学習の時間（当校は，４年生が環境についての学習を行っている）の学習内容として位置付けたが，資料は４年生に難しい部分もあったため，スライド等に加工して提示，適宜補助的な説明を加えるなど，理解を助けるために工夫する必要があった。

　よって，低～中学年で実践する場合，資料をどう活用して単元を構成するかが課題であったと言える。

■様式３：令和５年度「地域の特色を活かした環境学習等支援事業」に係る授業記録

学校名	授業学級（人数）	実施日	実施教科等	授業者（職・氏名）
浜浦小学校	**57名**	**11/10**	**総合**	**教諭　樋口　大輔**

・主題名　水環境と人とのよりよい関わりのために
・ねらい　公害（新潟水俣病）の学習を通して，「人と自然」「人と人」との関わりについて調べたいことを考え，表現することができる。

配時（分）	教師の働き掛け	子どもの反応（学習活動等）	資料
１０	・ワークシートを配付する。 阿賀野川の位置を確認しましょう。阿賀野川はどんな川ですか。 〇阿賀野川の位置を地図で確認させ，どんな川なのかを全体で共有させる。	●当校のすぐそばにある信濃川と並んで新潟を代表する河川である。 ●地図を見ると，福島県から新潟県に流れてきていることがわかる。 ●この川沿いの地域で，新潟水俣病が起きた。	・Ｐ108 のワークシート ・大地図
２０	人々は阿賀野川と，どのように関わりながら生活してきたのでしょうか。 〇環境と人間のふれあい館から貸りた DVD を視聴し，新潟の人々が水の恵みを受けて生活してきたことや，公害によってそのような生活を壊されてしまったことを理解させる。 〇人々と阿賀野川の関わりが分かる写真等を提示し説明する。 これからスライドを見てもらいます。どんなことが分かりますか。 〇資料をもとにしたスライドを提示する。公害によって被害を受けた人々がいることに気付かせる。	●舟運，漁業，川砂利採取などで，人々は阿賀野川から，多くの恵みを受けて生活していた。 〇DVD の補助資料として，資料１を読むことで，人々と川との関わりについて捉える。 ●環境を汚染した結果，被害を受けた人が大勢いた。 ●新潟では，新潟水俣病が発生してしまった。	・Ｐ106 の資料１～３（樋口さんのお話）それらをもとにしたスライド



資料１・２・３に加えて，当時日本の各地で発生していた公害問題を扱った映画「ゴジラ対ヘドラ」を資料スライドに起こし，公害がどのようなものかを捉えさせた。

	新潟水俣病の発生により，人々はどのような被害を受けたのでしょうか。		・P106 のワークシートを使用する。
	○資料２・３から樋口さんが受けた被害についての悩みを考え，話し合う場を設ける。 ○社会的差別とは何かについて説明する。	●体がしびれて仕事ができない。また，その「しびれ」は誰も分かってくれない。 ●魚が食べられない。売れない。生活できない。 ●社会的差別を受けた。	
１５	１１月１５日の環境と人間のふれあい館では，どんなことを調べてきたいですか。また，語り部の方から，どんなことを学びたいですか。		
	○被害者である語り部が新潟水俣病をに語り伝えていることの意味と，環境との関わり方の必要性に気付かせる。 ○今の私たちにできることを見付けるために，たくさん学んでくることを意識させる。	●公害は，自然環境や人間にどのような影響を与えてしまったのかを詳しく調べたい。 ●被害者が語り部をしているのは，自然の大切さを忘れてはいけないと伝えたいからだ。 ●語り部のお話（講話）や調べ学習をして，自分たちにできることを見付けたり，学んだことをいろんな人に広めたりしたい。	

・授業後の子どもたちの考え等(作文等一部抜粋)

・（前略）なぜ環境を大事にしなければいけないのかが，この勉強を通して分かりました。水俣病以外にも，川や海のごみ問題など，環境を壊すことは今でもたくさんあります。ごみをきちんとごみ箱に入れるなど，自分にできることをしていきたいです。

・（前略）新潟水俣病の困るところは，その病気にかかっているか，見た目からは判断できないことだと思いました。人を見た目で判断しないで，困っている人がいたら，何か手伝えることはないかを聞ける人間になりたいです。

※ 作文は，別日（１１月１５日に行った環境と人間のふれあい館への校外学習）後に，まとめとして作成した。

令和５年度　「地域の特色を活かした環境学習等支援事業」　写真データ（新潟市立浜浦小学校）






本日の語り部
小町　ゆみ子
さん



■様式２：令和５年度「地域の特色を活かした環境学習等支援事業」実施報告書

学校名	新潟市立女池小学校	担当（職・氏名）	教諭・竹内　佳保子
学習テーマ	・自然環境を守るために、自分ができることは何だろう ・差別や偏見をなくすために、自分ができることは何だろう		
活動のねらい	・新潟水俣病の原因や症状、発生の仕組みを正しく理解することを通して、自然環境保全への意欲を高める。 ・新潟水俣病の被害者の思いや生き方を知ることを通して、偏見や差別をなくすためにできることを考え、行動できるようにする。		

○　新潟水俣病とのかかわり

阿賀野川流域で起きたことから、子どもたち自身にとっても身近な問題として捉えさせた。

５学年社会科「環境をともに守る」では、四大公害病の新潟水俣病を軸にして、他の公害病と比較しながら学習した。

また、次の二点を目的に、「環境と人間のふれあい館」の見学を行った。

① 新潟水俣病の原因や症状、発生の仕組みを正しく理解するだけでなく、公害をなくす取組を自分たちの生活と重ねて考えさせるようにする。

② 新潟水俣病の被害者の思いや生き方を知り、偏見や差別をなくすための自身の行動に結び付けられるようにする。

○　活動概要（新潟水俣病とのかかわりの内容に触れてください。）

（１）道徳「ある新潟水俣病患者の訴え」

（２）社会科「環境をともに守る」　新潟水俣病に関するパンフレットや冊子の活用

（３）「環境と人間のふれあい館」の見学

（４）自分ができることや社会形成に向けて大切なことを考える。

○　活動詳細

実施期間	４学年：７月　５学年：９月～１０月

主な学習内容・活動内容	時間	指導・支援の内容
４学年　総合 環境と人間のふれあい館見学と水質調査	３	鳥屋野潟と福島潟の水質調査を行い、自然環境保全への意識を高める。
５学年　道徳 新潟水俣病について知る	１	「ある新潟水俣病患者の訴え」（新潟県同和教育協議会小学校高学年用副読本「生きるⅢ」所収）を通して、被害の実態や被害者の思いや生き方に触れることができるようにする。
５学年　社会 四大公害病について知る	２	５学年社会「環境をともに守る」で、新潟水俣病が四大公害病の一つであること、自然環境を守るために様々な取

		組が行われてきていることを理解できるようにする。
５学年　総合 環境と人間のふれあい館見学	３	館内の展示について説明を聞いたり、語り部の方の講話を聞いたりして、新潟水俣病の原因が水質汚染であることや、今でも被害に苦しむ方の思いに気付き、新潟水俣病についての理解を深められるようにする。
５学年　社会 学習のまとめ	３	４学年の社会科「ごみのゆくえ」と総合的な学習の時間の学習も想起しながら、これまでの学習をまとめ、自分ができることを考え実践できるようにする。

○　協力団体・協力者等（※この欄の必要が無ければ削除してください。）

・環境と人間のふれあい館

○　成果と課題　（※成果と課題を分けて記述してください。水俣病とのかかわりの内容に触れてください。）

【成果】

・社会科の公害、道徳の差別や人権、総合的な学習の時間、前学年の学習を、横断的に関連させて学習させることができた。

・二度の「環境と人間のふれあい館」見学により、自然環境と生活のつながりを実感させながら、理解を深めさせることができた（前年の様子を、職員の方が覚えていてくださっていて、発展的な説明をしていただけた）。

・子どもたちの新潟水俣病への関心が高まり、水俣病に関する新聞記事やテレビの報道を話題が子どもたちから出るようになった。

・「水環境」をテーマにして学習を計画的に行うことで、新潟水俣病や新潟市内のある潟や河川について、興味関心をさらに高めたり、地域の自然環境保全の取組に参加したりすることができた。

【課題】

・様々な教科の学習や見学を通して、水俣病について学ぶことはできたが、小学校６年間を通して、発達段階に応じた学習計画作りまでには至らなかった。

■様式３：令和５年度「地域の特色を活かした環境学習等支援事業」に係る授業記録

学校名	授業学級（人数）	実施日	実施教科等	授業者（職・氏名）
新潟市立女池小学校	**5年1組（27人）**	**10月4日**	**総合**	**教諭・竹内佳保子**

・**単元名**　「自然とともに生きる」　小単元「環境をともに守る」

・**ねらい**　国土の環境と国民生活との関連について、公害防止の取組について多角的に考えたり、自然環境保全の課題やそれに伴う偏見や差別の問題を把握したりすることを通して、解決に向けて自分ができることを考えることができる。

配時（分）	教師の働き掛け	子どもの反応（学習活動等）	資料
5	**環境と人間のふれあい館でどんなことを学んできましたか。**	・阿賀野川で水俣病が起きた。 ・水俣病は四大公害病の一つ。 ・たくさんの人が苦しんだ。病気や差別。 ・今でも水俣病で苦しんでいる人がいる。	見学メモ 資料 P44-49 P51
5	**新潟水俣病とはどんな病気ですか。**	・工場から出たメチル水銀で起きた病気。 ・食物連鎖の中で魚を食べた人の体内に水銀がたまり病気が出た。 ・最初は、原因が分からなかった。水銀のための病気だと認めてもらえなかった。 ・語り部の方は、目に痙攣があり足がもつれるとおっしゃっていた。実際にその様子が分かった。 ・神経に影響が出て、色々な症状が出る。治らない。すごく苦しい病気。 ・公害病。館の方から、兄弟地蔵が熊本県水俣市にあるとお聞きした。熊本県でも起こった公害病。	
10	**なぜ，ここで新潟水俣病が起こったのでしょうか。** ○　地図帳で阿賀野川の位置を確認し、阿賀野川とその流域にすむ人々の関わりを想起させる。	・語り部の方から、昔は阿賀野川はきれいな川で、生活の中で阿賀野川の水をたくさん使ったり、泳いだり、魚を食べたりしていたとお聞きした。 ・阿賀野川上流にあった工場が流した排水の中に入っていたメチル水銀が，川を汚染したから。環境が汚染されたから。	

		・体の具合がおかしくなっても、それが阿賀野川の水のせいだと気付くのが遅かったから。環境問題が世の中の問題になっていなかったのかもしれない。	
10	**なぜ差別や偏見が起きたのでしょうか。** ○「環境と人間のふれあい館」での見学や語り部の方の話を想起させる。 ○「生きるⅢ」の学習を想起させ、水俣病の問題が環境問題だけでなく、偏見や差別を生んでしまったことに気付かせる。	・原因が分からず、怖い奇病だと思われたから。 ・みんながもっと早く環境問題だと気付いたり認めたりできればよかった。 ・今までなかった病気だから怖いとか思って、勝手に奇病だと決めつけてしまった。 ・差別された人はとても苦しんだ。だから差別された人も周りの人も、病気のことを隠してしまった。その気持ちは分かる。自分たちの中にも同じようなことがあるから、その気持ちや状況は分かる気がする。	見学メモ 生きるⅢ資料 P7-9
5	**市民は阿賀野川とどう関わってきたのでしょう。** ○教科書の事例（北九州市）やこれまでの調べ活動をもとに考えさせる。	・新潟県や新潟市が開いた、語り合う場に参加して、新潟水俣病について理解を深めている。 ・新潟市企画した住民参加型のツアーやイベントに参加して、地域のつながりを大切にしている。	県ＨＰからダウンロードした冊子
10	**これまでの学習を振り返り、これからわたしたちが何ができるか考えましょう。** ○これまでの一連の学習をまとめ、グループで話し合う。	（下記「授業後の子どもたちの考え」参照）	

・授業後の子どもたちの考え（抜粋）

○　４年生のときにも（環境と人間のふれあい館を）訪れたことがありました。５年生になって、もっと学習を深めることができました。公害病を二度とくり返してはいけないと思いました。

○　環境と人間のふれあい館では、水俣病についてたくさんのことが分かりました。私は、水俣病の薬や治療法がまだしっかりとは見付かっていないことにびっくりしました。水俣病の正しい理解が必要だと思いました。

○　語り部さんの話を聞いて、今日の授業をして、水俣病にはたくさんの問題があると気付きました。環境問題も偏見や差別の問題も、水俣病のようなことがこれからも起きないようにしていかなければならないと思いました。

○　もっと水俣病のことを知り、より多くの人に伝えていきたいと思いました。より多くの人に水俣病のことを知ってもらって、環境の大切さに気付いてほしいです。

○　阿賀野川だけでなくて、他の川の水は大丈夫なのかなと気になりました。川の水をきれいにしていきたいと思いました。環境問題のことをもっと大事に考えていきたいです。

○　環境について自分ができることを進んで取り組んでいきたいと思いました。例えば、ごみの「３Ｒ」です。

○　これから総合的な学習の時間に「ユニクロ・ＧＵ服の力プロジェクト」活動をします。難民の人たちも、戦争や偏見差別で苦しんでいる人だと思います。そういう人たちの力になれるように、「ユニクロ・ＧＵ服の力プロジェクト」に取り組んでいきたいです。

環境と人間のふれあい館での活動









■様式２：令和５年度「地域の特色を活かした環境学習等支援事業」実施報告書

学校名	新潟市立丸山小学校	担当（職・氏名）	教諭・吉居　秀高
学習テーマ	「大好きにいがた・大好き大江山」～米から学ぼうふるさと丸山～		
活動のねらい	自分たちの故郷である新潟には，様々なよさがあることを知る中で，身近な地域で行われている米作りに目を向け，農家の人々の工夫や努力を知るだけでなく，食や水の安全性に関心をもつことができる。		

○　新潟水俣病とのかかわり
・学校周辺の地域の田畑や学校田に使用している水の水源が阿賀野川であること。

○　活動概要（新潟水俣病とのかかわりの内容に触れてください。）
・総合学習を進める中で，自分たちの生活と阿賀野川の水には深いつながりがあることを知る。
・社会科の学習で４大公害病について学び，その１つが新潟で起きたこと，そして阿賀野川の水が関係していることを知る。
・食の安全性だけでなく，その生産のもととなる水の安全性や自然環境を守ることの大切さに気付き，これからの自分たちの生活を考える中で，自分の思いを伝える活動に取り組む。

○　活動詳細
①苗作りを見学する。　②米作りや田植えの話を聞く。③田植えを体験する。
④米や加工品について学ぶ。　⑤稲刈りを体験する。　⑥社会科で水俣病を知る。
⑦語り部の話を聞く。　⑧プレゼンを制作する。　⑨テレビ局の高橋さんの話を聞く。
⑩プレゼンを推敲する。　⑪プレゼンを発表する。

実施期間	４　月～　１　月

主な学習内容・活動内容	時間	指導・支援の内容
米の苗や田植えの仕方について学ぶ。①②	５	・農業に取り組む地域の池田さんやＪＡの方から話を聞く。 ・インターネットを活用し，米作りや米について情報を集めたり，それを新聞などにまとめたりする。
田植えを体験する。③	１	・学んだことを活かし，実際に田植えを体験する。
米の加工品や米粉について学ぶ。④	７	・インターネットを活用し，様々な米の加工品があることや米粉のよさについて知る。 ・集めた情報を選択し，新聞などにまとめたり，友達に発表したりする。
稲刈りを体験する。⑤	１	・池田さんの話を聞き，実際に稲刈りを体験する。
水俣病について調べる。⑥	２	・阿賀野川流域で水俣病が起こった原因などを調べたり，その情報をもとに友達と話し合ったりする。

水俣病について学ぶ。⑦	1	・「人間と環境のふれあい館」を訪れ，そこで水俣病の語り部の話を聞いたり，ふれあい館に展示されている数多くの資料を見学したりする。
水俣病について学んだことをまとめる。⑧	8	・これまでの学習の中で得た知識や情報をもとにプレゼンを制作する。
情報の伝え方について学ぶ。⑨	1	・ＴｅＮＹテレビ新潟を訪れ，高橋さんから情報の伝え方や配慮することなどを学ぶ。
まとめたプレゼンを推敲する。⑩	1	・高橋さんから学んだことをもとに，内容の見直しをする。
自分の考えを発表する。⑪	1	・製作したプレゼンをもとに，これまでの学習を通して自分が感じたことや思いを発表する。

○　協力団体・協力者等（※この欄の必要が無ければ削除してください。）

・池田　誠さん，ＪＡ新潟（米に関する講演や田植え・稲刈り指導，田の管理など）

・人間と環境のふれあい館（見学時の資料の説明等）

・曽我　浩さん（水俣病の語り部）

・ＴｅＮＹテレビ新潟　高橋さん（情報の伝え方等）

【成果】

○水俣病の歴史や現状を学ぶ中で，これからの水や食の安全性について自分の考えをもったり，環境について関心が高まったりする児童の様子が見られた。

○語り部等，様々な人々との交流を通して，みんなが仲良く暮らしていける社会の実現を願う道徳的心情が育まれた。

○人を偏見の目で見たり，差別したりすることなく，みんなが仲良く暮らせる新潟にしていきたいという気持ちがプレゼン発表で多く見られた。

【課題】

△当初，児童を現地（津川の鹿瀬工場周辺）に連れて行きたいと考え，夏休み中に現地を事前視察したが，児童が意欲的に学習できる施設や状況ではないような気がした。水俣病の事実を子どもたちに語り継ぐことは大切であると考えるが，同時に指導内容や構成の難しさを痛感した。

△「人間と環境のふれあい館」の見学が４月当初の予定より１か月ほど遅れた。夏休み以降に見学を希望する団体が多く，バスの手配や曜日の兼ね合いもあった。４月当初から施設やバスの予約を考えておく必要がある。

■様式３：令和５年度「地域の特色を活かした環境学習等支援事業」に係る授業記録

学校名	授業学級（人数）	実施日	実施教科等	授業者（職・氏名）
新潟市立丸山小学校	**5年1組（33名）**	**12月15日**	**道徳**	**教諭　吉居　秀高**

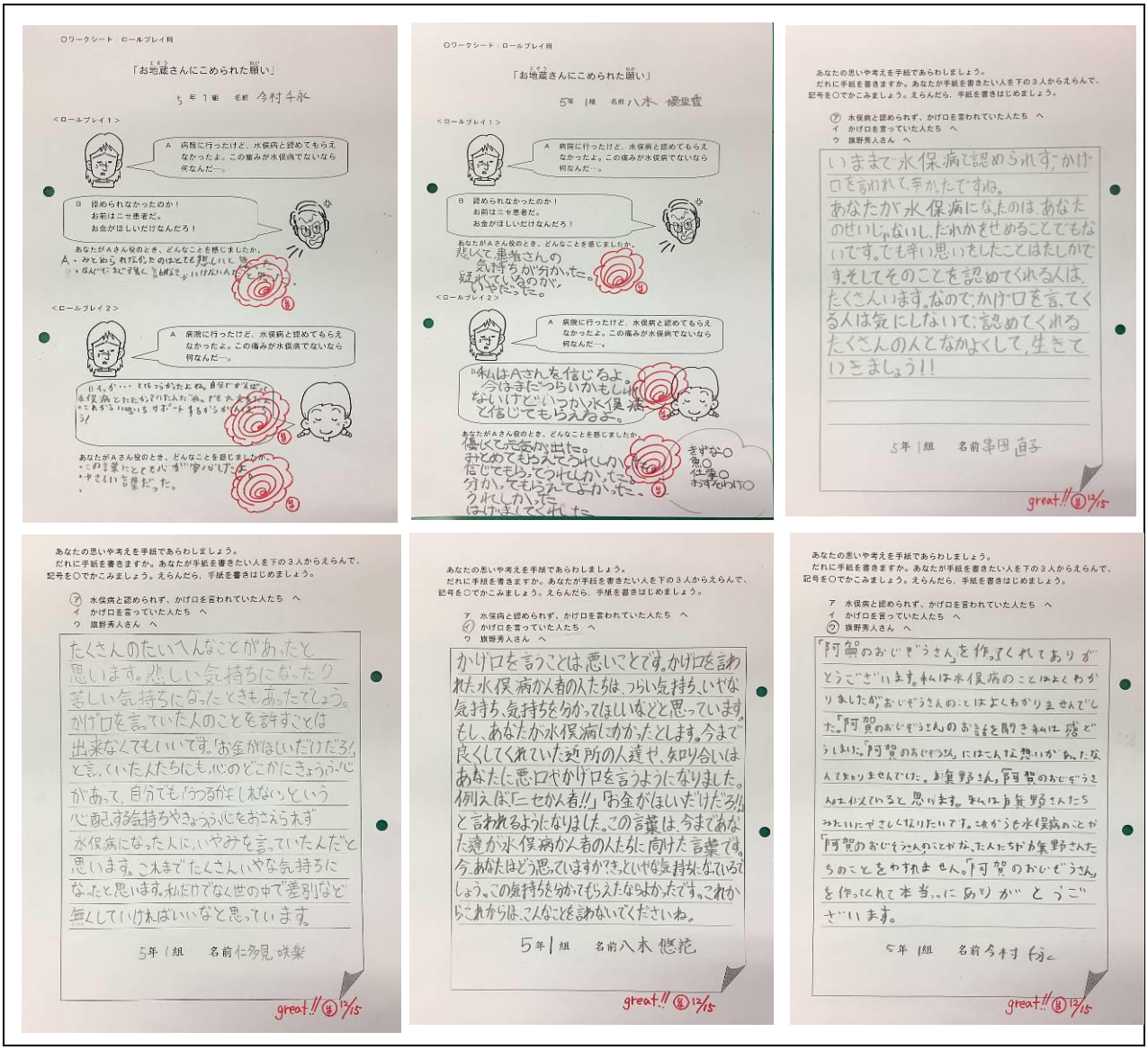
・主題名　**みんなが仲良くくらしていくために　２－（２）思いやり・親切**

・ねらい　**地域が差別や偏見によって結びつきを失う様子や結び付きを取り戻すために行動する人の姿を学習することを通して，相手の立場を想像したり，相手のことを考えた言動の大切さに気付いたりする中で，自らも相手に親切な行為を行おうとする心情を育てる。**

配時（分）	教師の働き掛け	子どもの反応（学習活動等）	資料
5	・読み物資料を配付する。 「阿賀のお地蔵さん」は，だれがどのような思いを込めてつくったのでしょうか。 ○語り部である曽我さんのお話の中にも登場したことを振り返る。	●曽我さんのお話にも登場してきた。 ●阿賀野川水域に暮らす人々が，仲良く暮らしていた昔の状況に戻ってほしいと願い，旗野秀人さんが提案した。	・Ｐ３７の読み物資料
25	ロールプレイを通して，Ａさん役の時に感じたことを話し合いましょう。 ○ロールプレイ用のワークシートを活用し，Ａさん役をした時の気持ちを書かせる。 ○ロールプレイ１と２での違いに注目させる。 ○Ｐ３６の提示資料３の両側にＡさんの気持ちについて出された子どもたちの考えを分かりやすくまとめ，比較できるように可視化する。	**●ロールプレイ１では，とても悲しい気持ちになる。** **●疑われて嫌な気持ちになった。** **●患者のつらい気持ちが少し分かった。**  **●ロールプレイ２は心が軽くなった。** **●励まされて安心できた。** **●分かってもらえてうれしかった。**	・P39のロールプレイ用のワークシート
5	みんなが仲良く暮らしていくために，旗野さんが私たちに伝えたかったことは何だったのでしょうか。相手を選び，あなたの考えを手紙に書きましょう。 ○旗野さんが伝えたかったことは何か話し合う中で，自分の考えをもたせる。	**●差別は絶対にしてはいけない。** **●互いに助け合う優しさをもってほしい。** **●相手を思いやる気持ちをもってほしい。**	

10	○伝えたい相手を選びばせ，自分の考えを手紙に書かせる。  	●患者の方々に励ましの手紙を書きたい。 ●陰口を言っている人にやめるよう伝えたい。 ●旗野さんに今日の学習を通して感じたことを伝えたい。	・Ｐ４０の終末まとめ用のワークシート

・授業後の子どもたちの考え等（作文等）



■様式２：令和５年度「地域の特色を活かした環境学習等支援事業」実施報告書

学校名	新潟市立結小学校	担当（職・氏名）	教諭　藤塚　恵子
学習テーマ	自然の変化が人々にもたらした影響について調べ、自然を守るための取組を考えよう。		
活動のねらい	総合的な学習の時間で学んだ身近な川を中心とした自然について、公害問題の学習を通して、されに理解を深め、環境を守っていこうとする態度を育てる。		

○　新潟水俣病とのかかわり

・新潟水俣病について知り、語り部さんから直接学ぶ。

・「環境と人間のふれあい館」と連携し、必要な資料を借用したり、実際に見学したりして学びを深める。

○　活動概要（新潟水俣病とのかかわりの内容に触れてください。）

・４年生で学んだ、身近な川の学習で、どのような課題があったか振り返る。

・四大公害病について調べ、身近な地域にも新潟水俣病があったことを知る。

・「環境と人間のふれあい館」に行き、学習を深める。

・語り部さんからのお話をもとに、人権について考える。→道徳の時間で補充

・見学を通しての気づきを振り返り、学んだことをまとめる。

・環境を守るために大切なことを考え、今できることを発信する。

○　活動詳細

実施期間	令和５年７月～　１２月

主な学習内容・活動内容	時間	指導・支援の内容
身近な川の学習を振り返る	1	・４年時に学んだ身近な川の学習について振り返り、わかったことや課題となっていることを確認する。
四大公害病について調べる	4	・四大公害病について調べ、ふるさとにも新潟水俣病があることを知る。
新潟水俣病について知る	2	・コンテンツを視聴し、水俣病について知識を深め、課題意識を持たせる。
環境と人間のふれあい館を見学する	2	・環境と人間のふれあい館職員の話や、語り部さんの話を聞き、問題点や解決しなければいけないことを考える。
差別や人権について考える（道徳）	1	・新潟水俣病について、語り部さんの話をもとに差別や人権について話し合う。
新潟水俣病について自分の学びをまとめる	5	・学習したことをもとに、新潟水俣病新聞にまとめる。

○　協力団体・協力者等（※この欄の必要が無ければ削除してください。）

・環境と人間のふれあい館の職員、語り部さん

○　成果と課題　（※成果と課題を分けて記述してください。水俣病とのかかわりの内容に触れてください。）

【成果】

・工業の発達に伴って、環境が悪化し公害問題が起こったこと、ふるさとにも新潟水俣病があることを知ることで、課題意識が高まり、学習に意欲的に取り組むことができた。

・新潟水俣病が過去の話でなく、今も苦しんでいる人たちがいることを知り、問題意識をもつことができ、人権や差別についても真剣に考えることができた。

・環境の変化が、人間だけでなく、自然界全体に大きな影響を与えることを実感することができた。

【課題】

・深刻な実態を知り、課題意識は高まったが、環境を守るために自分たちが具体的にできることや、身近な川での取組の考察に十分な時間がとれなかった。

・作成した新聞を、学級・学年外に発信する機会を設定することで、さらに深まると感じた。

■様式３：令和５年度「地域の特色を活かした環境学習等支援事業」に係る授業記録

学校名	授業学級（人数）	実施日	実施教科等	授業者（職・氏名）
新潟市立結小学校	**5年2組（32人）**	**7月11日**	**社会**	**教諭　細野　宏輝**

・単元名　国土の自然とともに生きる　環境をともに守る　～新潟水俣病～

・ねらい　〇ふるさと新潟の阿賀野川流域で、四大公害病の一つ、新潟水俣病が発生したことを知り、公害を身近な問題として捉え、問題意識をもつことができる。

配 時（分）	教師の働き掛け	子どもの反応（学習活動等）	資料p44～p45
10	四大公害病を知っていますか。 教科書を使って調べてみましょう。	公害は聞いたことがあるけど、病気はあまり知らない。 水俣病、新潟水俣病、四日市ぜんそく、イタイイタイ病。 新潟にもあったんだ。阿賀野川は知っている。	教p232
15	新潟水俣病の発生した阿賀野川について調べてみよう。		
	阿賀野川の位置と人々とのかかわりについて調べてみましょう。	秋葉区の北側を流れている。福島県から流れてくる。 日本で１０番目に長い。流れの多さは２番目。 漁業がさかんに行われていた。 農業や輸送や交通手段として生活と深くかかわっていた。	地図帳 ﾘｰﾌﾚｯﾄ
15	新潟水俣病について、もっと調べてみたいことは何ですか。		
	一人一人の考えをもとに、グループで話し合ってみましょう。	どうして水俣病は起きたのか。 水俣病はどんな病気か。 なぜ被害が大きくなったのか。 患者の苦しみは、どんなものだったのか。 どうして、差別が起きたのか。	
5分	今振り返りを書きましょう。		

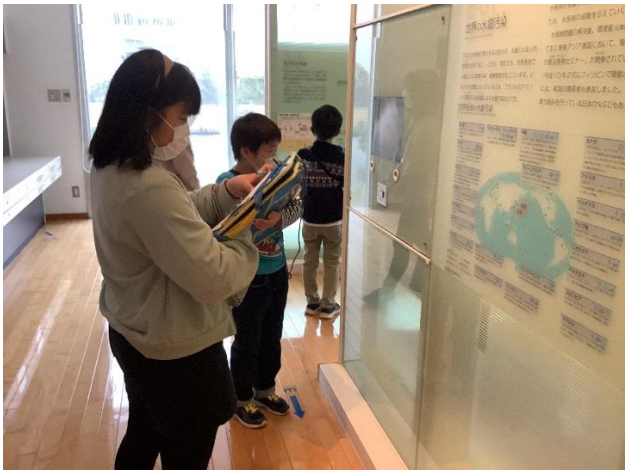
・授業後の子どもたちの考え等（作文等）

〇新潟に四大公害病があると知ってびっくりした。すぐ近くでおどろいた。

〇病気になって苦しいだけじゃなく、差別されて苦しんでいて、ひどいと思った。

〇今も解決していないことが不思議だった。







新潟水俣病新聞

五年一組
鈴木白和

新潟水俣病とは？

新潟水俣病の症状とは、手足のしびれやふるえ、うまく歩けない、言葉をうまく話せない、見えるはんいがせまくなる、耳が聞こえにくい、頭痛、味やにおいが分からないなど様子な症状があります。



新潟水俣病の原因は？

新潟水俣病を発生させた昭和電工かのせ工場では1936年から酢酸ビニルなどの原料となるアセトアルデヒドを生産しており、その時に使った水銀が毒性の強いメチル水銀に変わり、阿賀野川に流され食物連鎖を通じてプランクトン、魚へ取りこまれそれを大量に食べたことで、水俣病が発生したのです。

新潟水俣病のえいきょうとは？

新潟水俣病で、認定などの申請をした人に対して、「金目当て」とか、「ニセ患者」などのこかいやへん見をもたれることがあります。差別やへん見をおそれて「そ」としてほしい」とか「ねた子を起こすな」と周りの目を気にしている人や、自分が水俣病であることをかくしている人もいます。

感想

私は、水俣病を通してかん境を守らないと、一つの工場で何十人、何百人の人が亡くなってしまうということが分かりました。今は工場がたくさんな分んでいるけど、昔にこんな公害があると知ると今は平和だな、と思います。「人間も自然の中の一部であり、人間が自然に及ぼす影響は人間に巡ってくる」ということを教えてくれたと思います。

新潟水俣病新聞

五年一組　渡部莉愛

原因はなに？

新潟水俣病の原因は、昭和電工がビニール制衣品を開発中の時に、作るはずがなかったメチル水銀が出来てしまったのかっ、かりです。メチル水銀がまざった水を川に流してしまったため、プランクトンがメチル水銀を取りこみ、そのプランクトンを小さい魚が食べ、その魚を大きな魚が食べ人間が食べ体内にメチル水銀がたまってしまいじんそうやかんそうのうの神経さいぼうにいそこから、水俣病のしょう状が出初めてきたのです。



どんなしょう状だったの？

新潟水俣病の症状は、手足の痺れや震え歩きづらい上手く話せない視界が狭くなる耳が聞こえなくなる、頭痛味が分からなくなるなどし、様々な症状が現われましたですが一人一人症状は個人差がありました。



新潟水俣病かん者の声



水俣病かん者の人は、分かってもらえない症状の辛さ体の苦しみや、地域の絆を割く偏見の恐ろしさなでいろんな差別や偏見などをされてきました。それに家庭の中でも差別を受ける事を恐れ、秘密にしていたり、知られたら、でうしようという不安もありながら日常を過ごし、してもきた辛い日々を過ごしてきたのです。

まとめ

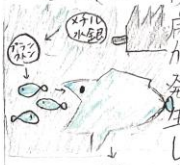
私は、水俣病の勉強をして、水俣病かん者は、みんなからの差別やへん見なで日々としても辛くて大変な事も知りました。私は、こんな苦しい事や悲しい事が起きないようもしこんな病気がまた起こったとしても、差別やへん見などはしないで、寄りそい合、て、支えあって協力してもうこんな辛い事が起こらないようにしていきたいと、私は思いました。

新潟水俣病新聞

五年一組　伊藤里桜

新潟水俣病とは？

昭和電工から流されたメチル水銀がもととなって新潟水俣病が発生しました。食物連鎖により、メチル水銀が魚にそれを人がたくさん食べて、新潟水俣病になってしまうのです。



川をきれいに!!

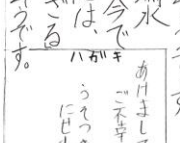
阿賀野川の汚染について詳しく調査を行いました。その結果、水銀のえいきょうがすべて取り除かれたことが確にんできたため新潟県は、千九百七十八年に、阿賀野川の安全宣伝が出されました。新潟水俣病を完全に直すことのできる治りょう法は、見つかっていませんが、頭が痛かったら、痛み止めを飲んだりして痛みを押さえていたそうです。

人が考えたこと・思ったこと

新潟水俣病になった人は本当にきいのに「ニセ患者」や「金目当て」と言われて悲しかったと思ったので、もし自分が生きていく中で公害が起きたら偏見や差別を言わないようにしたいと考えました。やっぱり川に水銀を流すのは環境に悪いし地域の人の迷わいになるからやめた方がいいと思いました。

ダメ!!「差別」「偏見」

新潟水俣病患者が一番辛かったことは、差別や偏見だそうです。「ニセ患者」「金目当てなど、新潟水俣病患者への偏見が今でも続いています。年始には、おけましてご不幸でござるのようなハガキが届いたそうです。



■様式２：令和５年度「地域の特色を活かした環境学習等支援事業」実施報告書

学校名	根岸小学校	担当（職・氏名）	教諭　植野麻美
学習テーマ	公害の被害を受けた地域では、環境を守るために、どのような取り組みをしているのだろうか。 環境を守るために自分たちでできることは何だろう。		
活動のねらい	公害の歴史を知ることで、人々の思いや努力を感じ、環境を守っていこうとする態度を育てる。		

○　新潟水俣病とのかかわり

新潟水俣病の語り部さんから話を聞く。「環境と人間のふれあい館」を訪問し、正しい知識をもとに学習を進める。

○　活動概要（新潟水俣病とのかかわりの内容に触れてください。）

・あがのがわ環境学舎の協力で、水俣病の原因や被害の実態について学習した。その後、現地見学を実施した。

・「環境と人間のふれあい館」を訪問。語り部さんから直接話を聞き、阿賀野川流域での生活の様子や差別の実態について学んだ。職員の方の説明から、水俣病について正しい知識を得た。

○　活動詳細

実施期間	令和５年６月～令和６年１月

主な学習内容・活動内容	時間	指導・支援の内容
環境学習のガイダンス	１	○水俣病についての概要説明 ○学習のねらいの共有
あがのがわ環境学舎講師による授業	２	○講師による講義 ○ワークシートの活用 ○動画視聴
現地見学	４	○旧昭和電工鹿瀬工場・鹿瀬ダム見学
環境と人間のふれあい館見学・語り部さんの話	４	○語り部さんの話 ○職員の方からの説明
差別について考える	１	○道徳教材を用いて差別について考える
身近な環境について「水」をテーマに調べる	４	○学校田での活動経験と水の関わり ○水と健康を守るためにできることを考える。
まとめ・ふりかえり	６	○グループでのまとめ（ロイロノート） ○グループでの発表 ○個人でのまとめ

○　協力団体・協力者等（※この欄の必要が無ければ削除してください。）

環境と人間のふれあい館

あがのがわ環境学舎

阿賀町役場

○　成果と課題

【成果】

・あがのがわ環境学舎の講師の方からの講義・現地見学を通して，産業の発展の中で起きてしまった公害について，多面的に考えることができた。

・水俣病の問題が現在も続いていることが分かり，

・語り部さんのお話から，病気や差別の実態やつらさを共感的に理解することができた。

・新潟水俣病が、身体の健康を奪っただけでなく，差別や偏見を生んでしまったことを理解し，差別を生まないためにどうすればよいかを考えることができた。

・学校田の活動と併せ，水環境を守っていくことの大切さを理解し，自分たちの生活を見直すきっかけとなった。

【課題】

・環境を守るための取組について，もっと具体的な方法を調べたり実践したりすることで，生活に根ざしたものにしていく必要を感じた。

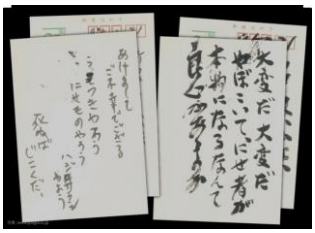
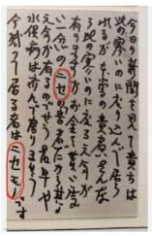
・水俣病に関する資料には，子どもには難しいものもあり，ねらいに即して必要な資料を用意することが難しかった。

■様式３：令和５年度「地域の特色を活かした環境学習等支援事業」に係る授業記録

学校名	授業学級（人数）	実施日	実施教科等	授業者（職・氏名）
根岸小学校	**5年（21名）**	**1月12日**	**道徳**	**教諭・植野麻美**

・主題名　だれもが幸せになれる社会を

・ねらい　ハンセン病と水俣病の歴史や患者が受けた差別の様子から，誰もが幸せになれる社会とはどんなものかを考えることを通して、社会的な差別や偏見と向き合い、公平・公正な態度で行動しようとする態度を育てる。

配時（分）	教師の働き掛け	子どもの反応（学習活動等）	資料
0	○教材文を読む。 ○ハンセン病の人が受けた差別と水俣病の人が受けた差別についてまとめる。	●水俣病と似ている。 ●水俣病と同じように差別で苦しんだ人たちがいた。	道徳「きみがいちばんひかるとき」5年P94～99
	課題：誰もが幸せになれる社会にするために，できることは何だろうか。		
8	○どんな考えが，差別を生んだのか，教材文や資料を元に考えさせる。	●患者さんたちは他の人とは違うと考えていた。 ●病気がうつるとか，たたりとか、病気に対する正しい知識がないこと。 ●賠償金をもらったことへのねたみ	新潟水俣病教師用指導資料第2集P48
	 	【子どもの声】 ●こんなことを言われたら、悲しくなるよ。 ●困っている人にひどいことを言うのはよくない。	
20	○きみ江さんはどんな思いで「人が同じ過ちを繰り返さないように」と言っているのかを考えさせる。	●差別によって苦しくつらい思いをした人がいたことを忘れないでほしい。 ●差別する人も間違いだと知ったとき、きっと後悔する。 ●正しい知識がないと偏見や差別につながってしまう。	
30	○どんな社会が実現できるとよいかを話し合わせる。	●みんなが幸せに暮らせる社会 ●差別がない社会	

35	○よりよい社会を実現するためにどんなことが必要か考えさせる。	●周りの人が間違っていると思ったときに、勇気を出して「違う」と言う。 ●どんな病気なのかとか、調べたり聞いたりして正しい知識を持つこと。	
40	まとめ：誰もが幸せになれる社会にするために, ① 正しい知識をもつこと ② 差別を許さないということをみんなで伝える		
	○振り返りを書かせる。		

・授業後の子どもたちの考え等（作文等）

- ○ ハンセン病の話を読んで、環境と人間のふれあい館で聞いた話と似ていると思った。病気に対する差別は、いろいろなところにあるんだと思った。差別はよくないと思うけど、差別する人に自分が言えるかは、自信がないなと思った。
- ○ 病気で苦しんでいる人が差別されたり、ひどい手紙をもらったりするのはおかしいと思う。
- ○ みんなが幸せになるために、差別を見付けたときに、きちんとだめだと言えるようになりたいと思った。一人でできなくても、みんなで言うことが大事だと思う。













■様式２：令和５年度「地域の特色を活かした環境学習等支援事業」実施報告書

学校名	新潟市立五十嵐小学校	**担当（職・氏名）**	教諭・森山信男
学習テーマ	環境保全・自然環境について考えよう		
活動のねらい	自然環境と人の関係性を知り，起きたこと，人々の生活にもたらした影響，課題解決の取組について理解を深め，環境を保全していこうとする態度を育む。		

○　新潟水俣病とのかかわり

・人災として，新潟県でも公害病が起きたことを知り，川と人々の生活を調べ，新潟水俣病の発生原因と流域の人々の生活について正しく理解する。
・直接的な体験を重視し，新潟水俣病である語り部さんからの話から学ぶ時間をつくり，新潟水俣病についての学習を深める。
・「環境と人間のふれあい館」を訪問し，正しい知識をもとに学習を深める。また，様々な人々がこの問題の解決に関わっていることを捉えさせる。

○　活動概要

①五十嵐地区にある自然環境「清心の森」について知り，そこでの取組について学ぶ。
②清心の森における課題について調べ，地域の人たちが安全に楽しく過ごすために地域の人と協力して考えて活動していきたいという願いをもつ。
③社会「環境をともに守る」の学習を通して，身近な環境の変化は，地域の人の暮らしにどんな影響を与えるのかを考える。
④インターネットや書籍等を活用しながら新潟県で起こった公害（新潟水俣病）について調べる。
⑤「環境と人間のふれあい館」に行き，語り部さんの話を聞いたり，館内を見学したりする。
⑥語り部さんの実体験をもとに，被害者の思いや願いに思いを寄せ，差別解消や環境保全のためにできることを考える。
⑦清心の森で植樹等の保全活動に取り組む。
⑧清心の森の自然環境や保全活動を地域の人たちに広める。
⑨学習を振り返り，環境保全・自然環境についてまとめる。

○　活動詳細

実施期間	**８月　～　１月**

主な学習内容・活動内容	**時間**	**指導・支援の内容**
五十嵐地区の自然環境･環境保全	１５	・五十嵐地区にある「清心の森」について，ゲストティーチャーから話を聞いたり，実際に訪れて森に親しんだりする活動を通して，「清心の森」の自然環境と環境保全の取組について知らせる。
新潟の自然環境と公害	7	・新潟県の自然環境の課題として，自然災害だけでなく人災があったことに気付かせる。

環境と人間のふれあい館見学,語り部さんの講演会	3	・新潟水俣病の発生原因や時代背景,病に苦しむ人々の生活の様子等を正しく理解させる。
新潟水俣病から考える	5	・環境と人間のふれあい館の見学や語り部さんの講演からの学びを振り返らせる。 ・水俣病被害者の思いや生き方,人と環境との関係について，まとめさせる。
わたしたちと自然環境・環境保全	１５	・これまでの学習を振り返り，自然環境・環境保全についてまとめさせる。 ・自分たちの住む五十嵐地区の環境を,地域の人々と関わり，保全していこうとするよう支援する。

○　協力団体・協力者等

・清心の森代表　束理　哲英　様
・環境と人間のふれあい館　様
・語り部　権瓶　良雄　様
　　小武　節子　様

○　成果と課題

【成果】

・「地域の特色を活かした環境学習等支援事業」で予算（今回はバス代）を支援いただいたことで,環境と人間のふれあい館を,家庭の負担が少なく訪れることができた。新潟水俣病に関する実際の資料に多く触れることができた。また,職員の方から解説していただいたことで,子供たちは理解がしやすかった。環境と人間の関わりを考えることで環境保全の大切さを理解することができたと考える。環境と人権について，施設を通して学ぶことができた。
・環境と人間のふれあい館において，語り部の方から，対面で講演いただくことで，語り部の方の表情,息遣い等を子供たちは直接感じることができた。その中で新潟水俣病の歴史とその被害の経験，人と人との絆の大切さ，差別・偏見のない公平・公正さ，正義の実現を求めることの大切さ等を学ぶことができた。
・五十嵐地区の「清心の森」という，子供たちが身近な環境に目を向け，知り，考え，行動することで，環境問題を身近なものとしてとらえ，環境の大切さを理解し，知識，行動力，意欲を育むことができた。

【課題】

・今回は,「地域の特色を活かした環境学習等支援事業」で予算（今回はバス代）を支援いただいたことにより，環境と人間のふれあい館を，訪れることができた。今後，家庭の負担が少なく継続して校外学習を計画することは難しい。
・今回は，環境と人間のふれあい館において，語り部の方から，対面で講演いただくことができ，語り部の方の表情，息遣い等を子供たちは直接感じることができた。今後，DVD 視聴に変えざるを得ないというのはやや残念である。
・環境と人間のふれあい館より，何冊かのリーフレットや DVD を事前にいただき活用することができた。さらに,環境と人権について学びを深めることができるような指導資料があると便利であると感じた。



真剣にメモを取って，**小武節子**さんのお話を聞き，インプット



権瓶良雄さんのお話を聞いた後，質問や感想を述べ，アウトプット



映像資料から，新潟水俣病の概要を学ぶ子どもたち





環境と人間のふれあい館を見学し，水環境を理解

五十嵐地区「清心の森」で，地域の東理さんたちと一緒に環境保全活動に取り組む子どもたち
飛砂による災害防止のために松を植えました







■様式３：令和５年度「地域の特色を活かした環境学習等支援事業」に係る授業記録

学校名	授業学級（人数）	実施日	実施教科等	授業者（職・氏名）
新潟市立五十嵐小学校	5 年 2 組（38 人）	10 月 19 日	社会	教諭・森山信男

・**単元名**　公害を二度と繰り返さないために～新潟水俣病～

・**ねらい**　阿賀野川流域が新潟水俣病の発生地域であることを知るとともに，阿賀野川と人々のかかわりを知り,川の恵みは人々の生活にとってなくてはならないものであることを理解させる。

　また，新潟水俣病の概要を知るとともに，学習課題をとらえさせ，環境と人間のふれあい館で，語り部の方のお話を聞くことに意欲をもたせる。

配時（分）	教師の働き掛け	子どもの反応（学習活動等）	資料
3	**（学習課題）新潟水俣病について知ろう。** **阿賀野川の位置を確認しましょう。** ○阿賀野川の位置を地図で確認させる。	●五十嵐小学校より北部にあり，栃木，福島県境を源に，新潟市で日本海にそそいでいる。	・環境と人間のふれあい館 Web ページ
10 17	**阿賀野川の近くに住んでいる人たちは，川とどのように接してきたでしょうか。** ・リーフレット「新潟水俣病が教えてくれたもの」を配付する。 ○阿賀野川の自然と人との関わりを確認する。  ○DVD「新潟水俣病」を視聴する。 **阿賀野川で発生した新潟水俣病は，どんな病気だったでしょう。** ○視聴して，分かったことや感じたことを発表させる。 ・「未来へ語りついで」の挿絵や写真を児童の発言に合わせ提示する。	●鳥，魚，植物，昆虫など，自然の豊かな川である。 ●流域に住む多くの人は，水運，農業，漁業に従事していた。 ●水量を生かして日本有数の水力発電地帯である。 ●人々は阿賀野川から，多くの恵みを受けて生活していた。 ●阿賀野川の魚を多食した人に発生した公害病である。阿賀野川沿いに被害が見られた。 ●昭和 30 年～40 年にかけて工業の発展期に発生した。メチル水銀が含まれた工場排水が原因になって発生した。 ●しびれやこむら返り，耳鳴りなど様々な病気の症状がある。身体的だけでなく心理的，社会的な苦しみがある。元の健康な体には戻せない。	・リーフレット「新潟水俣病が教えてくれたもの」 ・「未来へ語りついで」第 2 部第1～3章の挿絵や写真

8 7	○発表を参考に，タブレットのシートに詳しく調べたいことをまとめる。  ○「環境と人間のふれあい館」へ校外学習で行き，詳しく調べてくることを伝える。 ・環境と人間のふれあい館 Web ページを提示する。	●新潟水俣病は，どのようにして起きたのか。 ●どのような経過をたどって人の体に入ったのか。 ●患者の苦しみや思いはどんなだったのか。 ●病気を防ぐ取組は行われたのか。 ●環境を守る取組はどのように行われているのか。 ●「新潟県立環境と人間のふれあい館」は，新潟水俣病と水環境をテーマにしている。 ●新潟水俣病の被害や歴史を学び，被害者の体験を聞くことができる。 ●環境と人間のかかわりを考える中で環境保全の大切さを理解してもらいたいと書いてある。わたしたちが総合の学習で取り組んでいる環境保全の参考になる。	・環境と人間のふれあい館 Web ページ

・授業後の子どもたちの考え等（作文等）

・今までの自分は，水俣病のことを知らずにいて，水俣病にかかった人は一生治らず，痛みも精神的にも苦しんでいることを知らなかった。お話をお聞きして，詳しく知り考えたい。

・ぼくは，水俣病は知っていたけれど，そのつらさや悲しさなどをあまり知りませんでした。患者の皆さんの思いはどんなだったのかを聞いてきたいです。

・公害にあった人は，いじめや差別で苦しんだ。また，公害は地域の絆も壊していることを知りました。私は，いじめや差別のない未来にしたいです。だから，これからは公害を出さないことが大切です。でも，原因がわからない病気に近くの人がなった時，「怖いな」と思ってしまいます。そんなときも，その人の気持ちを考えて，その時自分にできることをして，いじめや差別をなくしたいと思います。そのために，詳しく体験した人の話を聞いてきたいと思います。

・今まで，公害のことを知らなかったし，意識してこなかった。環境と人間のふれあい館で，そのことを学んできたい。

・ぼくたちは，地域の清心の森を学習している。清心の森や日本海夕陽ラインにある松林が，わたしたちが住んでいる地域を砂から守ってくれている。新潟水俣病では，阿賀野川流域に住んでいる人々を巻き込んでいた。これからも，自分たちが住む地域の環境について考えていきたいと思った。

■様式２：令和５年度「地域の特色を活かした環境学習等支援事業」実施報告書

学校名	新潟市立潟東小学校	担当(職・氏名)	教諭・山本　尚
学習テーマ	EM 菌の仕組みや活用事例を学習することを通して,EM 菌と水質保全のつながりについて調べる。		
活動のねらい	EM 菌を用いて学校のプールや田んぼの水をきれいにする活動を通して，水質保全の良さや大切さについて気づき，川の環境を保全するためにできることに取り組もうとする態度を育てる。		

○　新潟水俣病とのかかわり

語り部さんから新潟水俣病によって川がどのように変わってしまったのかを学び，川が人間や自然と深く結びついていることに気づかせる。

阿賀野川の再生のために取り組んできたことや時間について知り，問題の解決には多大な時間と人々の関わりが必要なことを捉えさせる。

○　活動概要（新潟水俣病とのかかわりの内容に触れてください。）

①EM 菌の仕組みや活用事例を学ぶ。
②EM 菌を培養し，学校のプールや田んぼの水をきれいにする。
③阿賀野川の歴史から新潟水俣病の被害と再生までの取り組みについて知る。
④新潟水俣病により体も心も壊された人々が受けた差別や偏見を正しく知り，病気に対する差別をなくす学習をする。
⑤EM 菌と川の水質保全のつながりについて学習し，川の環境保全のためにできることを考え，発信する。

○　活動詳細

EM 菌を活用した，学校のプール清掃や田んぼの水質向上。環境と人間のふれあい館での校外学習。

実施期間	６月～　　２月

主な学習内容・活動内容	時間	指導・支援の内容
EM 菌について学ぶ	２	「EM 菌」について学び、水質や環境についてどのような影響があるかを学んだ。
プール清掃に EM 菌を活用	２	「EM 菌」を培養し、プール清掃に活用した。
新潟水俣病に関する学習	４	校外学習で「環境と人間のふれあい館」に行き、「新潟水俣病」について語り部から話を聞いたり、展示を見学して学習したりした。
米作りに EM 菌を活用	２	学校で培養した「EM 菌」を、田んぼに散布した。
病気に対する差別や偏見に立ち向かう学習（新潟水俣病）	１	新潟水俣病により体も心も壊された人々が受けた差別や偏見を正しく知り、病気に対する差別をなくしていこうとする心情を高めた。

○　協力団体・協力者等（※この欄の必要が無ければ削除してください。）

株式会社新潟タスク　山田富一様

新潟水俣病の語り部さん

環境と人間のふれあい館の人々

○　成果と課題　（※成果と課題を分けて記述してください。水俣病とのかかわりの内容に触れてください。）

成果

・EM 菌について学ぶことを通して，水質や環境の保全に興味・関心を持つことができた。

・EM 菌を活用し，水質向上させた田んぼでお米を栽培したことによって，おいしいお米になり，水質向上の大切さを実感できた。

・地域と連携したことで，家庭や地域の方々の理解や関心が深まった。

・EM 菌によりプールの水が汚れにくくなったことで，次年度のプール清掃の負担軽減となった。

・「環境と人間のふれあい館」に行き、新潟水俣病について語り部さんから話を聞いたり、展示を見学したりする学習を通して，新潟水俣病について学ぶことができた。

・新潟水俣病の原因追及や公害病認定に向けて懸命に取り組んできた人々の生き方を学ぶことを通して、新潟水俣病により体も心も壊された人々が受けた差別や偏見を正しく知り、病気に対する差別をなくしていこうとする心情を高めることができた。

課題

・EM 菌の培養は，コストと時間がかかる。

・EM 菌がないと，水質向上や環境保全に対して，自分ごととして学ぶことが困難な学習過程であった。

・校外学習先である「環境と人間のふれあい館」の場所が遠く，行くのに負担が大きいことや十分な日程を確保しなければならない。

・地域との連携が必要不可欠であり，ボランティアの募集や日程調整で負担が大きかった。

■様式３：令和５年度「地域の特色を活かした環境学習等支援事業」に係る授業記録

学校名	授業学級（人数）	実施日	実施教科等	授業者（職・氏名）
新潟市立潟東小学校	**5年1組（38人）**	**1月17日**	**道徳**	**教諭　吉越　遥香**

・主題名　病気に対する差別や偏見に立ち向かう～ある新潟水俣病患者の訴え～
　　４－（２）　公平・公正，正義の実現
・ねらい　　新潟水俣病の原因追及や公害病認定に向けて懸命に取り組んできた人々の生き方を学ぶことで，新潟水俣病により体も心も壊された人々が受けた差別や偏見を正しく知り，病気に対する差別をなくしていこうとする心情を高める。

配時（分）	教師の働き掛け	子どもの反応（学習活動等）	資料
5	・社会の公害に関する学習や，校外学習で聞いた「語り部さん」の話を想起させる。	・四大公害病について，知っていることを発表する。 ・校外学習で聞いた「語り部さん」の話を思い出す。	
	・資料を読む。	・新潟水俣病でこんなに多くの人が苦しんだなんて。 ・どうして同じ家に住んでいるのに，認定された人とそうでない人がいるのだろ	
	学習課題 主人公はなぜあきらめずに活動することができたのだろうか。		
	・「わたし」を「心も体もぼろぼろの状態にしたのは何か考えさせる。	・差別をされてつらいと思う。 ・嫌なことを言われたり，されたりしても頑張っていたのがすごい。	
	・当時，実際にあった差別について説明する。	・新潟水俣病は工場の排水が原因なのに，「たたり」と言ったり「ニセ患者」と言ったりするのはひどい。 ・お金のためにやっているのではないのに，どうしてそんなひどいことを言うのだろう。	資料 p.72
	・主人公があきらめずに活動に取り組んだ理由とは何かを考えさせる。	・「自分たちで最後にしたい」という強い思いがあったのだな。 ・厳しい差別があったけれど，活動を続けたのはすごいことだ。	

	・新潟水俣病患者に対する認定の現状（資料）を説明する。	・申告した人に比べて，認定された人がこんなに少ないなんて。	資料 p.7～9（差別実態）
	まとめ 「わたし」が信念をもって乗りこえようとがんばったから。		
	・新潟水俣病の現状や，人々の思いから考えたことをまとめる。	・公害は二度と起こしてはいけないし，そのために自分たちができることを考えなければいけないことが分かった。 ・どんな理由があっても，差別をしてはいけないし，自分たちが正しい事実を知らなければならないことが分かった。 ・	

・授業後の子どもたちの考え等（作文等）

・私は，水俣病になった人々はいろいろな苦労をしたり，つらい思いをしなければならなかったり，とてもつらいと思いました。もし工場が正しいことをしていれば，人々は苦労しなかったと思います。それでたくさんの人々が亡くなり，人々が訴えても認めてもらえなくて，今も苦しんでいる人がいます。私は水俣病になった人々にいやなことをしないで，やさしくしていきたいです。

・この勉強で，水俣病で苦しんでいる人々の想いが分かりました。私がもし同じ立場だったら，差別やつらさで絶望していたと思います。でも，実際に水俣病になった人たちは，病院や国・県とたたかい，訴え続けて認められたのだと分かりました。「自分たちの代で終わらせる」という責任感と信念をもって生きていたのだと思います。その人たちのおかげで，私たちは今安全に生活できるのだと思います。

・水俣病のつらさや「わたし」の想いがよく分かりました。どうしてだいたいの人が同じ症状になっているのに，病院の人は，人によって判断するのだろう…と思いました。自分が医者の立場だったら，水俣病の判断をちゃんとして，より多くの人を救いたいと思いました。

・昔はこんなことがあったのだと改めて勉強することができました。昔は公害や差別があって苦しんでいた人がいて，とても悲しいなと思いました。新潟水俣病だけじゃなくて，いろいろな県や町でいろいろな病で苦しんでいることも分かりました。「わたし」があきらめずに行動を続けられたのかをよく考えることができました。

・僕はこの勉強を通して学んだことは，こういう水俣病のことをしっかり理解してから，伝えていくことが大切だということです。もし理解しないまま伝えてしまうと，「水俣病は伝染するんだ」といった違うことが広まってよくないです。分かったことは，ひどいことが昔はあったということです。だからこれからは，正しく理解して伝えていきたいです。

■様式２：令和５年度「地域の特色を活かした環境学習等支援事業」実施報告書

学校名	新潟市立南浜中学校	担当(職・氏名)	教諭・金子秋優美
学習テーマ	新潟水俣病についての学習を通して，環境保全や人権尊重について考えを深めよう。		
活動のねらい	新潟水俣病の現地学習を通して，新潟水俣病への正しい理解を深めるとともに，差別や偏見を身近な問題として認識させ，自ら解決しようとする態度を育てる。		

○　新潟水俣病とのかかわり
・旧昭和電工（株）鹿瀬工場を見学したり，「環境と人間のふれあい館」で職員の説明や語り部の講話を聴いたりすることで，新潟水俣病についての理解を深める。

○　活動概要（新潟水俣病とのかかわりの内容に触れてください。）
　新潟水俣病について，ジグソー学習を行い，現地見学の前週には，あがののがわ環境学舎の職員の講義を受けた。現地見学では，鹿瀬工場と「環境と人間のふれあい館」を見学して学習を深めた。最後に，これからの社会をよりよくするための提言と自分ができることを考えた。

○　活動詳細
①新潟水俣病について，４つの観点でジグソー学習を行った。
②あがののがわ環境学舎の職員からグーグルマップを使い，阿賀野川流域を地図で確認しながら，鹿瀬工場が社会の変化に対応し生産品目が変化したことを学習した。
③旧昭和電工鹿瀬工場・鹿瀬ダム・排水口を見学する。
④「環境と人間のふれあい会館」で語り部の講話を聴いた後，施設見学をした。
⑤グループごとに分かれ，提言と自分ができることを考え，SDGs の項目を入れて，個人でまとめた。

実施期間	１１月～１２月

主な学習内容・活動内容	時間	指導・支援の内容
学習ガイダンス	１	・新潟水俣病について基礎知識の学習を行う。 ・今後の学習について理解する。
事前学習①	２	①発生の経緯・原因・②身体的被害・③社会的被害・④水俣病の現在，４つの観点に分けて，ジグソー学習を行った。
直前講義	２	あがののがわ環境学舎の職員からの講義を受ける。
校外学習	１日	旧昭和電工鹿瀬工場周辺を見学する。 「環境と人間のふれあい館」で語り部の講話と施設見学
まとめと発表	３	これからの社会をよりよくするための提言と自分ができることを SDGs の項目を入れてまとめる。班ごとに発表。

○　協力団体・協力者等（※この欄の必要が無ければ削除してください。）
　・あがののがわ環境学舎
　・環境と人間のふれあい館

○　成果と課題　（※成果と課題を分けて記述してください。水俣病とのかかわりの内容に触れてください。）

≪成果≫

・新潟水俣病を通した環境学習を通して，新潟水俣病についての理解とそれに伴う社会の差別や偏見に気付き，環境保全や人権尊重について考えを深めることができた。
・学習ガイダンスとあがのがわ環境学舎の職員によるパワーポイントを使った講義は，視覚教材が充実しており，生徒の視覚に訴えものであり，新潟水俣病の理解を深めた。
・４つの項目に絞り込んでジグソー学習を用いて調べ学習を行うことで，各自が責任をもち主体的に活動することができた。
・あがのがわ環境学舎の職員から直前講義で，ジグソー学習で学んだ新潟水俣病の内容を確認でき，目的意識をもって現地学習に臨めた。
・現地学習ではジグソー学習と直前講義で学んだこととリンクし，深い学びにつながった。
・実際に語り部の講話を目の当たりにし，生々しい当時の様子を垣間見る事ができた。今までの学習で知ることができなかったことや語り部の本当の気持ちなど，生きた情報を聴くことができ，差別や偏見を身近な問題として考えることができた。
・まとめの学習では，SDGs の視点で自分の立場に置き換え，自分ができることは何かを考えさせることによって，これからの生活に生かす態度が醸成できた。

≪課題≫

・調査活動を行ったが，タブレット活用が中心となり，配布された使用をじっくりと読みこむ時間が少なかった。また，インターネットで調べた資料の読み取りが難しく，理解できないまま書き写しているだけの生徒もいて，班に戻った際に，他の班員にうまく説明できない様子も見られた。調査時間の増加と説明の工夫，調査活動中の支援の仕方などの改善が必要である。
・まとめの学習活動の中で，感じたことや考えたことを発表し合って振り返りをすれば，より学習が深まった。

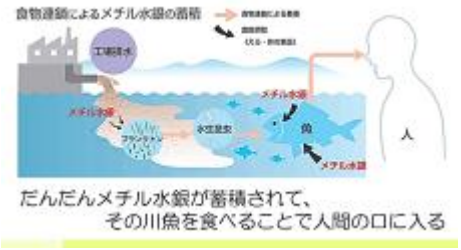
■様式３：令和５年度「地域の特色を活かした環境学習等支援事業」に係る授業記録

学校名	授業学級（人数）	実施日	実施教科等	授業者（職・氏名）
新潟市立南浜中学校	**1学年（18名）**	**11月8日**	**総合的な学習**	**教諭・石田勇弥**

・主題名　**新潟水俣病～環境と人権問題を考える～**

・ねらい　**新潟水俣病について，その発生原因や被害について考え，調査学習を通して，新潟水俣病が環境を破壊し，人権を侵害したことを理解し，環境保全と人権尊重の重要性について考え，校外学習に向けて意欲を高めることができる。**

配時（分）	教師の働き掛け	子どもの反応（学習活動等）	資料
導入（10）	ワークシートを配布 ○公害とは？スライドを使って説明する。	●説明 ・環境基本法では，事業活動やその他の人の活動に伴って生じる人の健康又は生活環境に係る被害と定義	ワークシート
	公害が発生したのはなぜか。		
	○公害が発生したのはなぜか，予想させる。（下はスライドの一例） 	●生徒の反応 ・自分勝手な人が多いから。 ・便利さを求めたから。 ・会社の利益を優先したから。 ・国が法律を作るなどの対策をしなかったから。	スライド（教師作成）
	○四大公害病とは？	●説明 ・新潟水俣病，水俣病，イタイイタイ病，四日市ぜんそく	
本時（30）	**（学習課題） 新潟水俣病とは、どのような公害だったのか。**		ワークシート
	阿賀野川と人々の暮らしはどのように結びついていたのか。		スライド（教師作成）
	○阿賀野川と人々の暮らしについて，スライドで説明する。（右はスライドの一例）	●説明 ・阿賀野川は生活の場，タンパク源だった。 	
	新潟水俣病が発生した原因は何か。		
	○新潟水俣病の発生原因について資料で調べる。（次ページは授業の様子）	●昭和電工から出されたメチル水銀を含む排水が原因である。 ●メチル水銀に汚染された川魚を大量に食べた人が発症した。（次ページはスライドの一例）	初めての新潟水俣病

	これからのどのようなテーマで学習していくか。 ○総合的な学習のテーマについて 	 **●テーマ** **①環境を守ることの大切さ** **②水俣病被害者の人権**	新潟水俣病 20 の疑問
まとめ 振り返り (10)	**(まとめ)** **・新潟水俣病とはメチル水銀を原因とする公害** **・新潟水俣病により、差別や偏見が生まれ、現在も苦しんでいる人々がいる。** ○授業を通して考えたことを書く。 ○ワークシートを回収し，数名の意見を発表する。	**●生徒の反応** **・手足のしびれ，震えなどいろいろな症状で今も苦しんでいる人がいることがわかった。** **・これからの新潟のためにも，水俣病への理解をもっと深めていきたいと思った。**	スライド(教師作成) ワークシート

・授業後の子どもたちの考え等(作文等)

・何があっても差別は本当にダメだと思いました。一人一人を受け入れてあげることが大切だと思いました。現地で小武さんにお話を聞いて、調べ学習では分からなかったことがすごく分かりました。

・新潟水俣病は二度と起こしてはいけないものだということがよく分かりました。起こさないためにはポイ捨てをしない、差別をしないなどです。今も苦しんでいると聞いてとてもかわいそうに思いました。将来は、水俣病救済にかかわる仕事に就きたいと思いました。これからも、もっともっといろんなことを知っていきたいです。

・私は事前学習で起こったことや差別について調べ、とても心が痛みました。何も悪いことをしていない人が、こんな目に合うのは違うと思いました。現地学習では、ふれあい館に行ったことが印象に残りました。特に小武さんのお話は、とても悲しくなりました。その時の実際にあったことや、差別には驚きました。家族なのに、仲が良くても水俣病のせいでバラバラになってしまったことや、暴力があったことなどを聞くと、涙が出てきました。差別については病院でもあったといっていました。発表会では、ふれあい館の建物について説明している班があって、よりくわしく知ることができました。他にもいろいろなことを、この学習を通して学べたので良かったです。



１１/１５(水)事前学習、先週 学習したことを確認



グーグルマップを使って南浜中を探し、阿賀野川流域を地図で確認







１１/22(水)現地学習、鹿瀬工場が見える高台で説明



現在の排水口の場所で説明



阿賀町文化福祉会館で昼食をとる生徒



環境と人間のふれあい館で語り部の話







施設職員から説明を受ける

説明後は、各自で自由に見学

令和５年度「地域実の特色を生かした環境学習等支援事業」実践報告 写真資料

教室内の様子



11/8(水)ガイダンス「水俣病について」基礎知識の学習

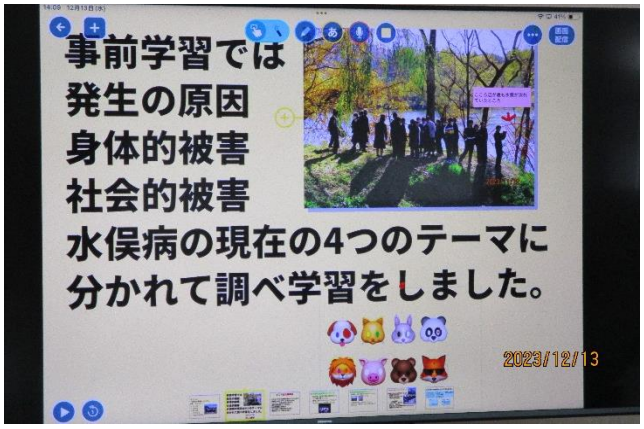


11/9(木)事前学習①「新潟水俣病について考える」
「調べ学習」４つの観点で４つのグループで調べる。
班に戻り、調べた内容を班員に発表する。





12/6(水)事後学習,校外学習後の感想を記入する。





12/13(水)まとめ学習・班ごとに発表し、水俣病について共有する。SDGs の視点から自分ができることを考える。

■様式２：令和５年度「地域の特色を活かした環境学習等支援事業」実施報告書

学校名	新潟市立白南中学校	担当（職・氏名）	教諭　田邊　聡子
学習テーマ	新潟水俣病に関する学習を通して，環境・人権・自分の生き方について考えよう。		
活動のねらい	新潟水俣病に関する調査活動を通して，水俣病が発生した当時の社会的背景や環境問題、人権問題を理解し，自然環境の在り方や人権について考えるとともに，自らの生活や行動に生かすことができるようにする。		

○　新潟水俣病とのかかわり

「環境と人間のふれあい館」を訪問し，水俣病に対する理解を深めることで人権に対する意識を高める。また，当時の人々の暮らしや社会の流れ，環境に対する意識など多角的観点から水俣病について考える。

○　活動概要（新潟水俣病とのかかわりの内容に触れてください。）

・読み物資料やＤＶＤから新潟水俣病について知る。
・新潟水俣病に関する疑問点と課題を見つける。
・校外学習（「環境と人間のふれあい館」へ訪問）を行い，詳しく学ぶ。
・新潟水俣病についてまとめ，発表し，振り返る。

○　活動詳細

①日本で過去に発生した公害病についてタブレットを使って調べ学習を行う。
②環境と人間のふれあい館 HP 掲載の新潟水俣病の学習の導入のための動画や「生きるⅣ」を使って，新潟水俣病についての概要を学習する。
③ＤＶＤを用いて新潟水俣病発生前後の，社会全体，人々の暮らし，人権と環境に対する意識などについて調べ，疑問点と課題を見つけてまとめる。
④「環境と人間のふれあい館」へ行き，語り部さんから直接お話を伺い，水俣病について正しく理解する。
⑤新潟水俣病の学習と合わせて、現在世界で発生している水俣病や環境破壊の問題について学習する。
⑥これまでの学びをまとめるとともに，環境と人権の２つの視点から，今後どのような姿勢で自らが関わっていきたいと考えるのかをプレゼンテーション形式で発表する。

実施期間	５月～７月

主な学習内容・活動内容	時間	指導・支援の内容
新潟水俣病について知る	３	・公害病がどのような時代背景の中で発生しているのかを学ばせる。 ・「環境と人間のふれあい館」HP の学習導入用動画や「生きるⅣ」で新潟水俣病についての概要を学ばせる。 ・水俣病患者に対する差別や偏見があることを理解させる。 ・「新潟水俣病」のＤＶＤを視聴させ，原因，当時の社会

		的背景，水俣病について詳しくとらえさせる。 ・学んだことをワークシートにまとめさせる。
校外学習	５	・資料館を訪問し，提示資料，ゲストティーチャーなどから幅広く情報を収集させる。
まとめる	３	・世界で現在発生している環境破壊の問題や水俣病について動画を視聴して学ばせる。 ・読み物や資料館，ゲストティーチャー，学習用動画(DVD)で得た情報をもとに，環境問題・人権問題について，今後の関わり方についてスライドでまとめさせる。
発表する・振り返る	３	・作成したスライドを使って，「環境と人権の視点から自分が今後大切にしていきたいこと」についてのプレゼンテーションを行う。 ・３～４人のグループを作り，iPad を使ってグループ内発表をさせる。その後，各班代表一名を選ばせて，大型モニターに iPad を拡大表示し，学級全体に向けて発表させる。

○　協力団体・協力者等

・環境と人間ふれあい館の皆様

・同館の語り部１名（小町　ゆみ子様）

○　成果と課題

＜成果＞

・学習用動画や読み物資料やＤＶＤなどを活用し，日本で発生した公害病や新潟水俣病の発生原因を知り，依然として患者に対する偏見や差別があることを理解し，人権意識を高めることができた。

・「環境と人間のふれあい館」を訪れ，展示資料を見たり語り部から話を聴いたりする活動を通して，新潟水俣病を含めた環境問題について理解を深めることができた。

・これまでの学びをタブレット（ロイロノート）にまとめ，グループごとに発表する活動を通して，新潟水俣病への見方や考え方を生徒同士で共有することができた。

＜課題＞

・環境汚染は許されざることなのだと強く実感し、差別は相手の気持ちを著しく傷つけるものであること、確かではない情報に基づいての行動は慎むべきことだと生徒は理解した。
その気持ちを自分の周りにも配慮できるように発展させていくことが今後の課題である。

＜写真資料＞　環境と人間のふれあい館で展示資料の説明を受ける生徒の様子



語り部さんの話を聞きながら，メモをとる生徒の様子



世界で発生している環境問題と水俣病についての動画を視聴する生徒の様子



発表会の様子（班内発表はタブレット、全体発表は大型 TV を用いて）





新潟水俣病の学習を通して終えて考えこと

Q：新潟水俣病のような悲劇を繰り返さないためにはどうしたら良いか。

H・Y さん

何もわからないところで憶測だけで人々が動いていたので、信頼できるようなところから正しい情報を受信することが大切だと思った。目の前にある情報だけでなく、いろんな角度から集めた情報を互いに照らし合わせて、どれが正解でどれが間違っているのか正しく判断することが大切だと思う。

相手の立場に立って言葉を発し、本当かどうかわからない噂は流さないことが人権の立場から考えなければならないことだと思う。

I・O さん

水俣病でつらいのに保障をもらうために嘘をついていると周りから言われたり、自分が水俣病だと認めると周りから避けられたりと、辛いことが多すぎると思った。

水俣病に限らず、被害者になってしまった人を簡単にからかったり、差別したりすることなく、人としてちゃんと向き合っていくことが大切だと思った。

相手の立場に立ってみんなが考えられれば、差別はなくなっていくと思うので、そういう社会になるよう私も努力していきたい。

S・T さん

本当は公害の被害者なのに遺伝する病気であるとか、伝染病だとか間違った噂が流れたために差別が起こったのはひどいことだ。確信がないのに噂だけを簡単に信じて行動することは間違っている。

職場を追われて収入がなくなると家族に迷惑をかけてしまうため病気の申請もできず、治療もできず、我慢しているしかなかったのは苦しいことだったと思う。

みんなが「今一番苦しいのは誰か」を考えて、その人に寄り添って無意味な差別をなくしていくことが大切だ。

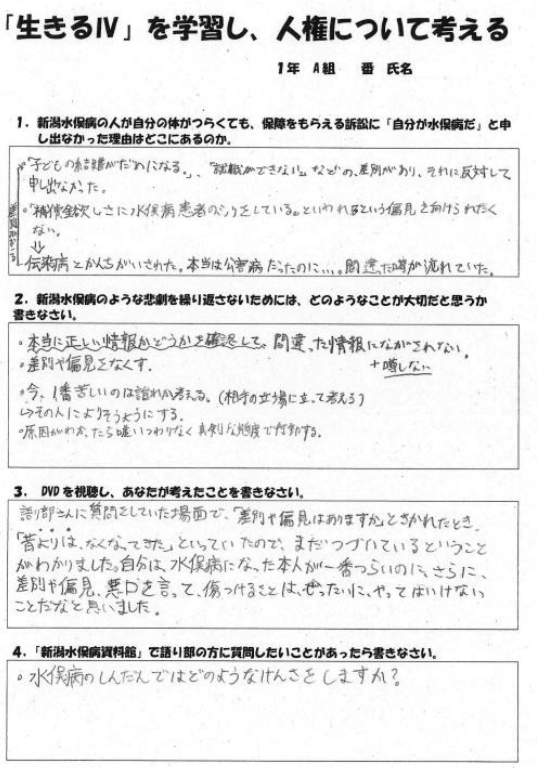
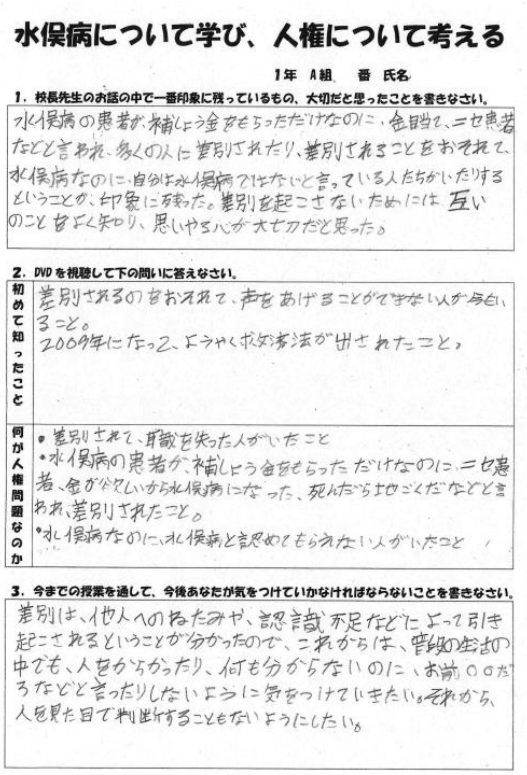
■様式３：令和５年度「地域の特色を活かした環境学習等支援事業」に係る授業記録

学校名	授業学級（人数）	実施日	実施教科等	授業者（職・氏名）
新潟市立白南中学校	**1年A組（40名）**	**6月21日**	**総合**	**教諭　田邊　聡子**

・単元名　新潟水俣病について詳しく知ろう　―ＤＶＤ「未来を見つめる旅～新潟水俣病から学ぶ人と環境のあした～」を視聴して―

・ねらい　新潟水俣病に関するＤＶＤを視聴する活動を通して，新潟水俣病には環境問題や人権問題があることを理解し，自然環境の在り方や人権について考えるとともに，自らの生活や行動に活かすことができるようにする。

配時（分）	教師の働き掛け	子どもの反応（学習活動等）	備考
20	・ワークシートを配付し，ＤＶＤを視聴させる。		
	新潟水俣病の発生原因や病気の症状は何でしょうか。		
	○ＤＶＤを視聴しながら，新潟水俣病の発生原因や，病状が何かを探らせる。	●阿賀野川上流で旧昭和電工が排水した汚水（メチル水銀）で育ったプランクトンを魚が食べ，さらにその魚を食べたことが原因で，多くの人々が発症したことを確認する。 ●手足のしびれや震え，視界が狭くなる，耳が聞こえにくくなる，頭痛，めまいなどといった症状があり，人によって異なる。	
	  DVD を視聴する生徒の様子（右写真） ワークシートのまとめと感想を発表し合う生徒の様子（左写真）		
20	○新潟水俣病には身体的な問題だけでなく，心の問題が潜んでいることに気付かせる。	●いわれのない差別や偏見，根拠のないうわさ，仕事ができないなどの心の問題が残っておりそれらが人権問題であることに気付く。	
	（学習課題） １、新潟水俣病の何が、どういう点が人権問題なのか。 ２、私たちが気をつけなければならないことはどんなことか。		
	○被害者は問題解決のために立ち上がった人々もいるが，完全な解決には至っておらず，依然として多くの人々が苦しんでいることに気付かせる。	●水俣病にかかっているだけで心も体も切ないのに、そこに根も葉もない誹謗中傷が加わっている点が人権問題だと思う。 ●人への思いやりのない接し方、思いやりのない言葉がけなど日常の中で起こりうる嫌が	

		らせなどがないように努めることが大切。	
	 「生きるⅣ」を学習し、人権について考える 1年 A組 番 氏名 1．新潟水俣病の人が自分の体がつらくても、保障をもらえる訴訟に「自分が水俣病だ」と申し出なかった理由はどこにあるのか。 ・「子どもの結婚がだめになる。」、「就職ができない。」などの、差別があり、それに反対して申し出なかった。 ・「精神的欠如」などに水俣病患者のようだ。といわれるという偏見を向けられたくない。 ・伝染病と仲間はずれにされた。本当は公害病だったのに…。間違った噂が流れていた。 2．新潟水俣病のような悲劇を繰り返さないためには、どのようなことが大切だと思うか書きなさい。 ・本当に正しい情報かどうかを確認して。間違った情報にながされない。 ・差別や偏見をなくす。 ・今、1番苦しいのは誰かを考える。（相手の立場に立って考える） ・その人によりそうようにする。 ・原因がわかったら嫌いっわりなく良い態度で接する。 3．DVDを視聴し、あなたが考えたことを書きなさい。 語り部さんに質問をしていた場面で、「差別や偏見はありますか」とされたとき、「昔よりは、なくなってきた」といっていたので、まだつづいているということがわかりました。自分は、水俣病になった本人が一番つらいのに、さらに、差別や偏見、悪口を言って、傷つけることは、ぜったいに、やってはいけないことだなと思いました。 4．「新潟水俣病資料館」で語り部の方に質問したいことがあったら書きなさい。 ・水俣病のしんたんではどのようなけんさをしますか？	 水俣病について学び、人権について考える 1年 A組 番 氏名 1．校長先生のお話の中で一番印象に残っているもの、大切だと思ったことを書きなさい。 水俣病の患者が、補しょう金をもらっただけなのに、金目当て、ニセ患者などと言われ、多くの人に差別されたり、差別されることをおそれて、水俣病なのに、自分は水俣病ではないと言っている人たちがいたりするということが、印象に残った。差別を起こさないためには、互いのことをよく知り、思いやる心が大切だと思った。 2．DVDを視聴して下の問いに答えなさい。 初めて知ったこと：差別されるのをおそれて、声をあげることができない人が多いこと。2009年になって、ようやく救済法が出されたこと。 何が人権問題なのか：・差別されて、自殺を失った人がいたこと ・水俣病の患者が、補しょう金をもらっただけなのに、ニセ患者、金が欲しいから水俣病になった、死んだらよかったなどと言われ、差別されたこと。 ・水俣病なのに、水俣病と認めてもらえない人がいたこと 3．今までの授業を通して、今後あなたが気をつけていかなければならないことを書きなさい。 差別は、他人へのねたみや、認識不足などによって引き起こされるということが分かったので、これからは、学級の生活の中でも、人をからかったり、何も分からないのに、お前○○だろなどと言ったりしないように気をつけていきたい。それから、人を見た目で判断することもないようにしたい。	
10	ＤＶＤを視聴して，新潟水俣病から学んだこと・考えたことを発表する。 ○ＤＶＤ全体を視聴して，感じたこと，学んだことは何かを考えさせ言語化させる。	●病気になった人をからかったり、差別したりせず、その人とちゃんと向き合っていくことが大切だと思う。 ●新潟水俣病だけでなく、世の中に流れているあらゆる情報が真実なのかどうかを見定めることが大切だし，差別や偏見をしてはいけない。	・実生活の中でどのようにこの学習を生かしていくかも考えさせる

・授業後の子どもたちの考え等（学習プリントより）

・差別や偏見が昔より良くなったのは水俣病の被害者の方が裁判に訴え続け、諦めなかったおかげだと思います。現在、多くの水俣病の方々が、病を隠さず治療に行くことができるのは大切なことだと思います。誰もが相手の立場に立って考えられたら、差別がなくなっていいのにと考えました。

・裁判を起こした人の勇気はすごいと思いました。そして、現在まで阿賀野川の水質をよくするために努力してきた人たちを尊敬したいと思います。

・「昔よりは差別がなくなってきている」ということは水俣病の原因が判明している今でも差別が残っているということなので、不思議なことだと思った。病気がうつる危険があるときは怖さから差別が起こることも考えられるが、なぜ伝染病でもないのに差別する必要性があるのか不思議だ。

令和５年度
小学校・中学校への地域の環境学習等支援事業
地域の特色を活かした環境学習支援事業
実施報告書

主催・制作　新潟県、新潟市
発　行　　新潟県立環境と人間のふれあい館
〒950-3324　新潟市北区前新田字新々囲乙 364-7
☎ 025-387-1450　　メール fureai@abeam.ocn.ne.jp